YAMAHA



40V
50H

船外機取扱説明書

058124

JMA00110

はじめに

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。

本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

⚠警　告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してありす。

⚠注　意 取り扱いを誤った場合、重傷に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様の変更などにより、図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

JMA20010

目　次



お使いいただく前に　1



各部の名称と機能　2



運転と操作　3



点検と整備　4

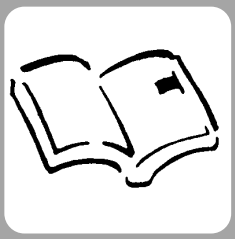


不具合時の対応　5



索引　6

よくお読みになってからご使用ください。



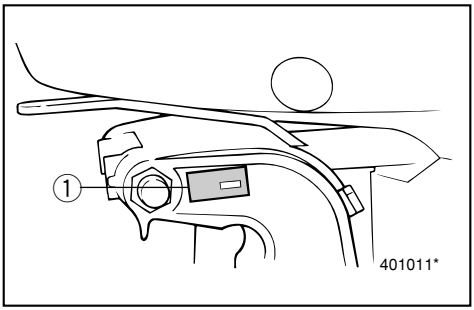


JMB00010

第1章

お使いいただく前に

製造番号 1-1
船外機の仕様区分 1-1
安全にご使用するにあたって 1-2
重要ラベル貼付場所 1-3
燃料とオイル 1-4
　ガソリン 1-4
　エンジンオイル 1-5
　ギヤオイル 1-5
バッテリ 1-6
プロペラ 1-6
冬期または寒冷地での使用について 1-7



JMB10110

製造番号



船外機の製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に製造番号を控えておくと便利です。

① 製造番号

JMB40010

船外機の仕様区分

本書での船外機製造番号（機種名称）による仕様の区分は、次のようになっております。

機種名称 / 区分	40VEO	40VWHDO 50HWHDO	40VWHTO 50HWHTO	40VETO 50HETO
ティラハンドル仕様	—	○	○	—
リモートコントロール仕様	○	—	—	○
マニュアルチルト仕様	○	—	—	—
ハイドロチルト仕様	—	○	—	—
パワートリム•チルト仕様	—	—	○	○
電動始動仕様	○	○	○	○
手動始動仕様	—	○	○	—

JMB21011

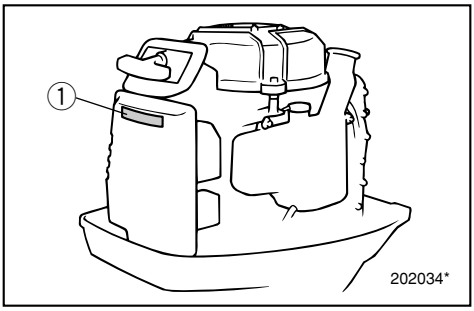
⚠ 安全にご使用するにあたって

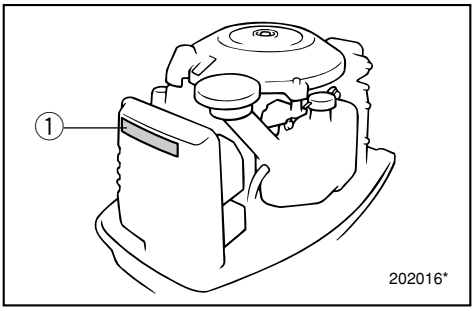
あなた自身と同乗者の安全のために

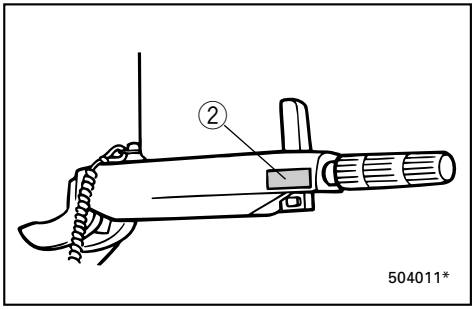
- この取扱説明書をよく読んでからお使いください。
- 船体の取扱説明書、および全ての注意書きやラベルをよく読んでから運転を行なってください。
- 船体の最大搭載馬力を越える船外機の取り付けは危険ですから絶対に行なわないでください。
- 改造は絶対に行なわないでください。
- 飲酒運転は絶対に行なわないでください。
- 救命胴衣は必ず船内に搭載し、船舶検査機関承認のものをご使用ください。
- ガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特に、エンジン始動時には、ガソリンの洩れがないことを確認してください。
- エンジン始動前には、スロットル、シフト、ステアリングの作動確認を行なってください。
- 運転中は、緊急エンジン停止スイッチの装備されているものは、カールコードを手、足や衣服の丈夫な場所に取り付けてください。
- 天気予報等を確認してから出港してください。
- 航行予定を関係者（マリーナや家族等）に届けてから、出港してください。また、帰港時には必ず帰港の連絡を関係者にしてください。
- 操船中は、常識と適正な判断が要求されます。そのためには、海況の変化に応じた操船技量を把握しておかなければなりません。操船は、操船者の技量やボート本体の能力の範囲内で、必ず行なってください。
- 関係各所や団体等から出版されているボート関連の安全教本等も合わせて読んでおいてください。

他の船舶や遊泳者の安全のために

- 海の交通法規、地域規定やマナーを守った運転を行なってください。
- 遊泳者には、十分注意を払ってください。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してくだい。
- 航走は、常に周辺の障害物や船舶等に十分注意をし、安全なスピードで行なってください。
- 海水浴場等への乗り入れは、行なわないでください。







JMB30010

重要ラベル貼付場所

警　告　ラベル

①

警　告

安全にご使用いただくために、次の事項をお守りください。
●ご使用前に　取扱説明書　、ラベル　を良く読んでください。
●始動時はシフトを中立にしてください。(シフト付機種)
●運転中は電装品には触らないでください。
●運転中は手や髪、服などが回転体に触れない様十分注意してください。
YAMAHA　6A1-83625-00

②

警　告

この船外機には中立での始動装置が装備されています。
エンジン始動時にはシフトを中立の位置にしてください。
YAMAHA　6E0-83627-00

JMU00467*

燃料とオイル

⚠警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。
- 給油中はタバコ等の火気を近づけないでください。
- エンジンを停止してから給油してください。
- 給油は換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクのはボートから降ろして行なってください。
- 取り扱いには十分に注意を払ってこぼさないように行なってください。
  こぼれた時はただちに拭き取ってください。
- 燃料タンクには規定容量以上給油しないでください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- 飲み込んだり、目に入ったり、または多量の揮発蒸気を吸い込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は、着替え等を行なってください。

⚠注　意

水や不純物の混ざっていない、きれいな容器に入った、新しいガソリンを使ってください。

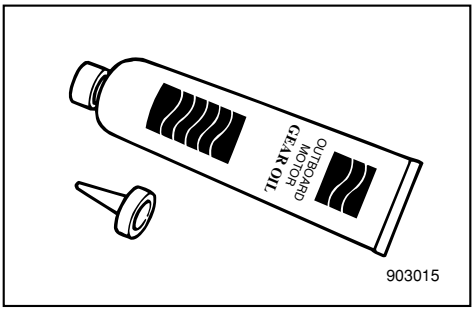
JMU00471

ガソリン

推奨ガソリン；
　無鉛レギュラーガソリン



903014



903015

JMB53010

エンジンオイル（2サイクル用）

推奨エンジンオイル：
ヤマハ船外機スーパースペシャル
オイル（ヤマハ船外機SSオイル）

部品番号　90890-6382H（0.4L）
90890-6382E（1L）
90890-6382G（4L）

JMB61010

ギヤオイル

推奨ギヤオイル：
ヤマハ船外機ギヤオイル、または
ハイポイドギヤオイル(SAE90)

部品番号　90790-73602（350㎖）
90790-73603（750㎖）

JMU01818

バッテリ

▲注　意

規定の容量に合わないバッテリは、使用しないでください。
規定容量外のバッテリを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。

この船外機(電動始動仕様)には、次の規格に適合するバッテリをご使用ください。

JMU01819

推奨バッテリ(JIS)：
32C24～65D31

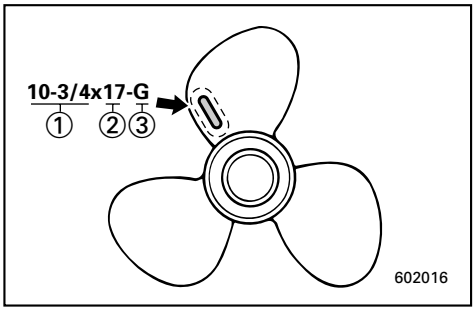
JMU01474

プロペラ

船外機の航走性能は、プロペラの選び方によって大きく影響を受けます。
不適切なプロペラは性能が引き出せないばかりではなく、重大な故障の原因にもなりかねません。
エンジンの回転数はプロペラサイズやボートの状態によって変わってきます。
全開エンジン回転数が規定範囲より高すぎたり低すぎたりした場合は、エンジンに悪影響をおよぼします。
指定された全開エンジン回転範囲に合わないプロペラが付いている場合は、ピッチの異なるプロペラを使って合わせます。
重負荷には、よりピッチの小さなプロペラを使って全開エンジン回転範囲に合わせます。
逆にピッチの大きなプロペラは、軽負荷用となります。
ボートの使用状態に最も適合するプロペラの選定は、ヤマハ取扱店にご相談して決めてください。

要　点

ボートが満載状態でスロットルを全開にした時に、エンジン回転数が仕様諸元で指定した全速回転範囲の中間値、またはそれ以上となるプロペラを選んでください。ボートが軽荷状態になったときには、指定回転範囲を越えないように、スロットルを調整してください。



スロットル全開航走時のエンジン回転範囲：
第 4 章の“仕様諸元”をご覧ください。

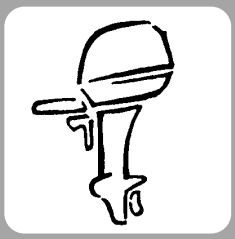
① プロペラ直径(インチ)
② プロペラピッチ(インチ)
③ プロペラの種類(プロペラマーク)

プロペラの取り付け、および取り外しに関しては、第 4 章の“プロペラの点検”の項目をご覧ください。

JMB90010

冬期または寒冷地での使用について

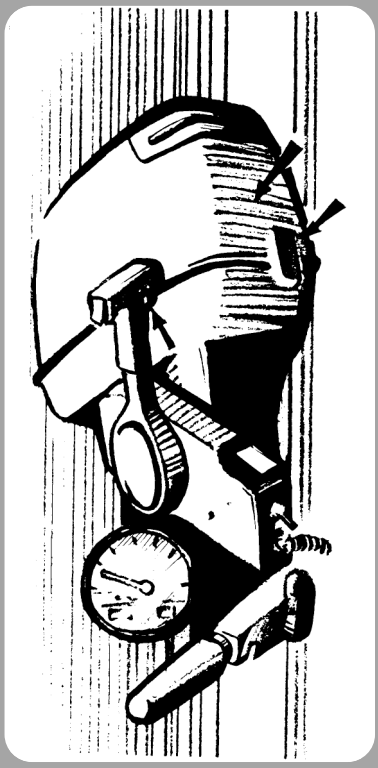
冬期または寒冷地で使用される場合は、「低速回転が不安定となりエンジンが停止する」、「航走後スロットルを戻した際にエンジンが停止する」等の現象が発生することがあります。
これらは、一般に「アイシング」と呼ばれる現象で気温や湿度の関係からキャブレタが氷結し、燃料の供給が不足するためです。
この現象がたびたび発生する場合は、キャブレタヒータの取り付けを推奨いたします。
キャブレタヒータのご購入、および取り付けは、船外機をお買い上げいただいたヤマハ取扱店にご相談ください。



JMC0010

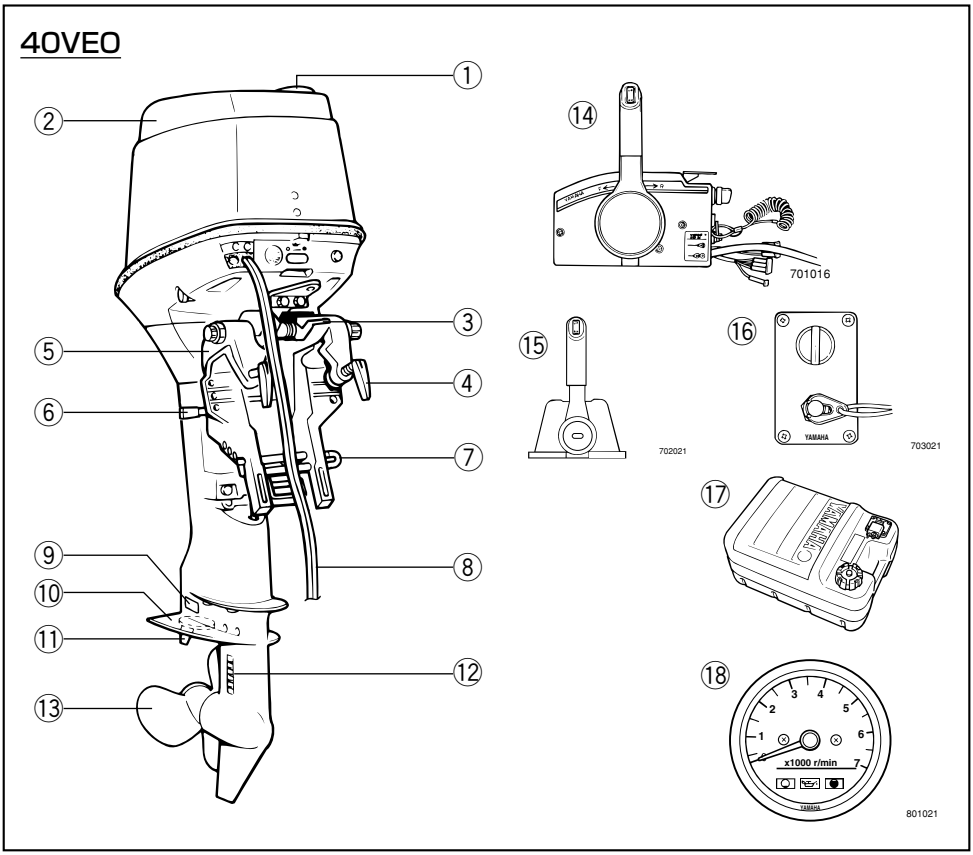
第 2 章
各部の名称と機能

主な構成部品 2-1
操作系とその機能 2-4
燃料タンク.....2-4
始動安全装置.....2-5
手動始動ハンドル.....2-5
機能集中ティラハンドル 2-6
リモートコントロール 2-10
トリムタブ.....2-15
チルトピン.....2-16
パワートリム•チルトスイッチ.....2-16
タコメータ.....2-17
トリムメータ.....2-17
チルトロック機構 2-18
チルトサポートレバー 2-19
トップカウル脱着レバー.....2-19
警告装置 2-20
オーバヒート警告 2-20
オイル残量•オイルフィルタ
詰まり警告.....2-21



JMC10O11

主な構成部品

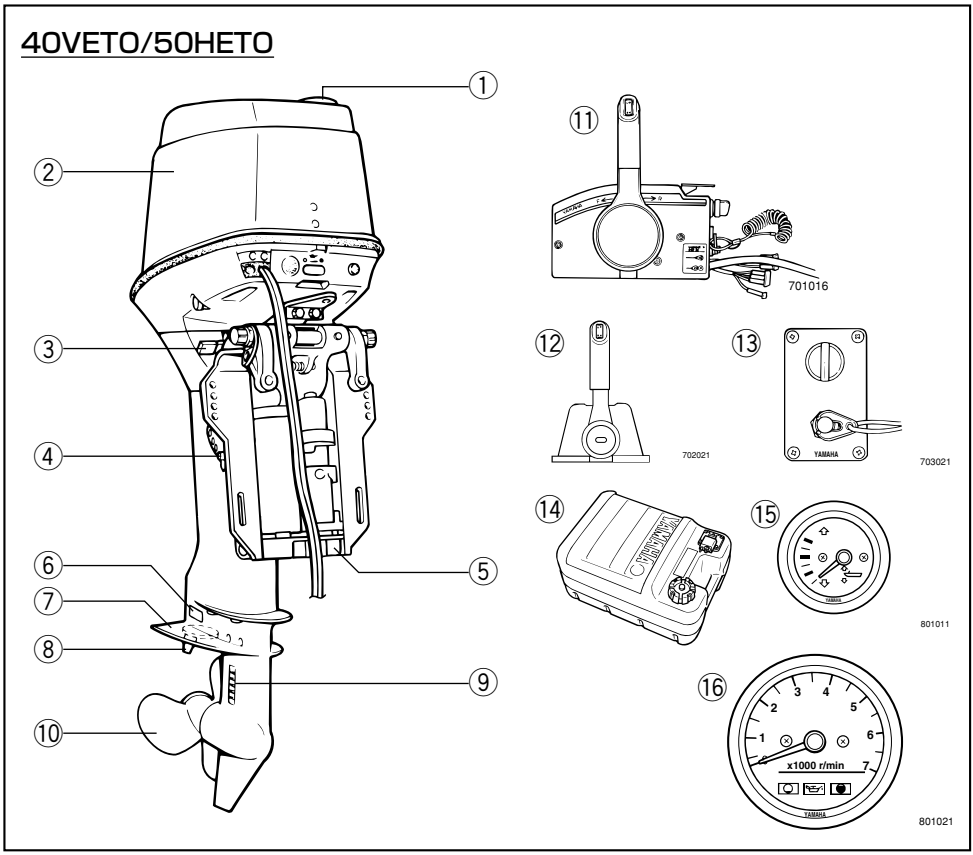


① オイル給油キャップ
② トップカウル
③ チルトロックレバー
④ クランプハンドル
⑤ クランプブラケット
⑥ チルトロックレバー
⑦ チルトピン
⑧ バッテリコード
⑨ アノード
⑩ キャビテーションプレート
⑪ トリムタブ
⑫ 冷却水吸水口
⑬ プロペラ
⑭ サイドマウントリモート
コントロールボックス
⑮ トップマウントリモート
コントロールボックス
⑯ スイッチパネル（ とセット）
⑰ 燃料タンク
⑱ タコメータ

（注）燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。
詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMC10011

主な構成部品



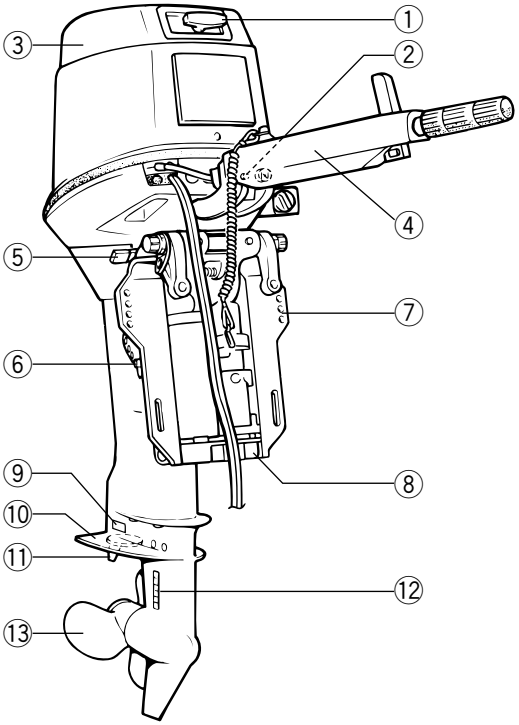
① オイル給油キャップ
② トップカウル
③ チルトサポートレバー
④ チルトピン
⑤ アノード
⑥ アノード
⑦ キャビテーションプレート
⑧ トリムタブ
⑨ 冷却水吸水口
⑩ プロペラ
⑪ サイドマウントリモート
コントロールボックス
⑫ トップマウントリモート
コントロールボックス
⑬ スイッチパネル（ とセット）
⑭ 燃料タンク
⑮ トリムメータ
⑯ タコメータ

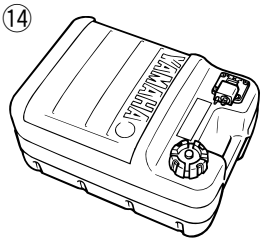
（注）燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。
詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMC10011

主な構成部品

40VWHDO/40VWHTO
50HWHDO/50HWHTO





① 手動始動ハンドル
② 警告灯
③ トップカウル
④ 機能集中ティラハンドル
⑤ チルトサポートレバー
⑥ チルトピン
⑦ クランプブラケット
⑧ アノード
⑨ アノード
⑩ キャビテーションプレート
⑪ トリムタブ
⑫ 冷却水吸水口
⑬ プロペラ
⑭ 燃料タンク

（注）燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。
詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

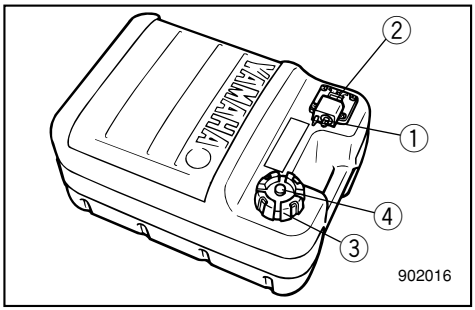
JMU00484

操作系とその機能

JMU01588

燃料タンク

ヤマハ船外機は、専用燃料タンクが用意されています。



① 燃料ホースコネクタ
② 燃料計（装備されている場合）
③ 燃料タンクキャップ
④ エアベントスクリュ（装備されている場合）

燃料タンク容量；
第 4 章の仕様諸元表を参照ください。

⚠警　告

- **保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。**
- **使用後はエアベントスクリュを閉じてください。**

JMU00486

燃料ホースコネクタ

燃料ホースをつないだり、外したりするためのものです。

JMU00487

燃料計

燃料ホースコネクタに装備されています。燃料タンク内のおよその燃料残量を示します。

JMU00489

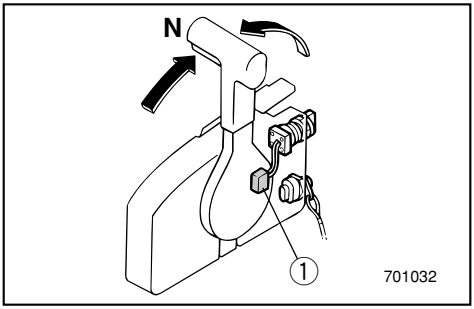
燃料タンクキャップ

燃料タンクの給油口のふたです。反時計方向に回すと緩みます。

JMU01424

エアベントスクリュ

燃料タンクキャップに付いています。
反時計方向に回すと緩み、燃料タンク内の圧力が大気開放されます。

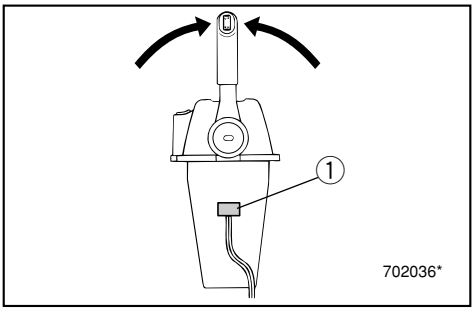


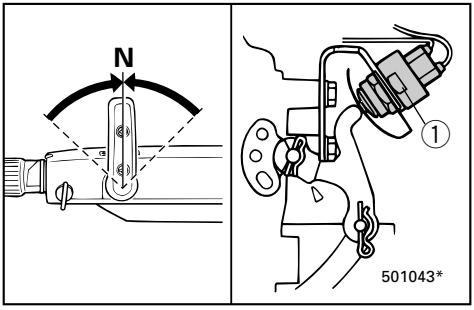
JMC23210

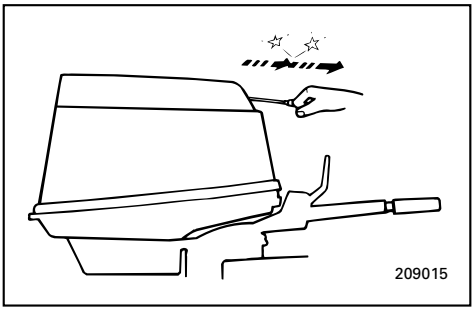
始動安全装置

中立（ニュートラル）状態以外ではエンジンが始動しないように、安全装置がついています。
エンジン始動前には必ず中立（ニュートラル）にしてください。

① 始動安全装置（ニュートラルスイッチ）



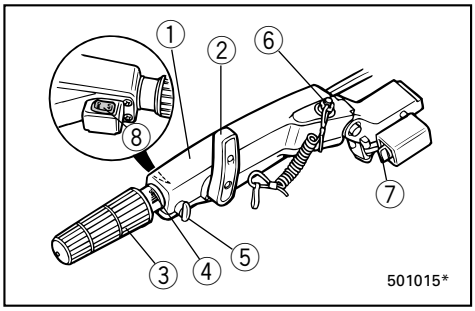




JMC44010

手動始動ハンドル

手動でエンジンを始動させるときに使います。
まず、ハンドルをゆっくりと引っ掛りを感じるまで引きます。
そこから、一気に後方へ強くまっすぐに引いてエンジンを始動させます。

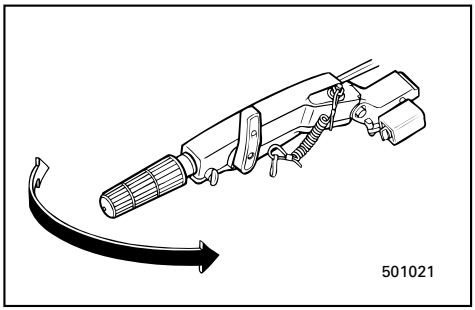


JMC62311

機能集中ティラハンドル

操船に必要な機能の大半がこのティラハンドルに装備されています。

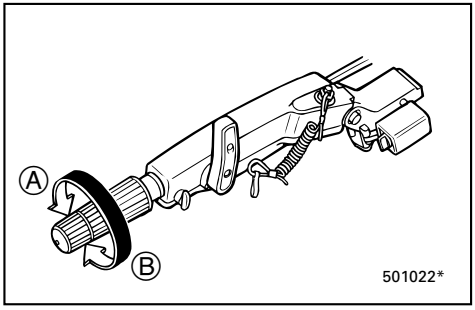
① ティラハンドル
② ギヤシフトレバー
③ スロットルコントロールグリップ
④ スロットルインジケータ
⑤ スロットルフリクション調整ノブ
⑥ 緊急エンジン停止スイッチ
⑦ エンジンスイッチ
⑧ パワートリム・チルトスイッチ



JMC60110

ティラハンドル

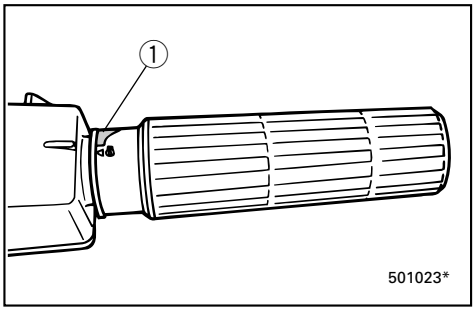
左右に動かして舵取り操作をおこないます。



JMC40310

スロットルコントロールグリップ

ティラハンドルの先端に付いています。
反時計方向に回すⒶと加速し、時計方向に回すⒷと減速します。

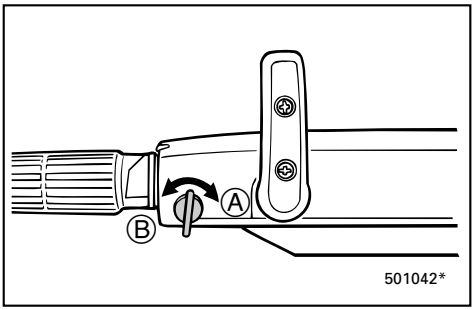


JMC40210

スロットルインジケータ

スロットル開度の目安を表示します。

① スロットルインジケータ



JMC64210

スロットルフリクション調整ノブ

スロットルコントロールグリップの動きの重さを調整するノブがティラハンドルに装備されています。

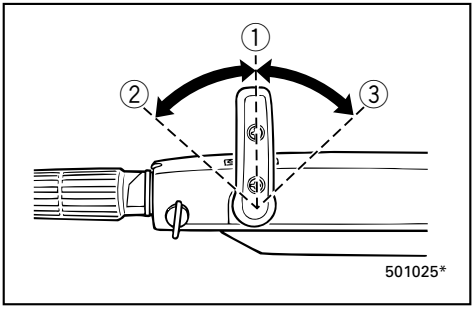
操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ(抵抗)	ノブ
増やす	時計方向に回すⒶ
減らす	反時計方向に回すⒷ

⚠警　告

調整ノブは、締めすぎないようにしてください。

スロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります



JMC25210

ギヤシフトレバー

前方(船首側)へ倒せば前進し、後方(船尾側)へ倒せば後進します。

① 中立（ニュートラル）
② 前進
③ 後進

JMC28210*

緊急エンジン停止スイッチ

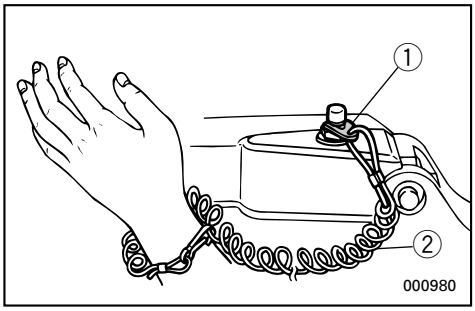
航走中に操船者が落水等で操船席から放り出されたときに、カールコードが伸び、ロックプレートが外れてエンジンが停止するようになっています。この目的は、船の暴走を防ぐためです。カールコード端のロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに取り付けなければエンジンの運転はできません。カールコードは確実に操船者の衣服や手、足に取り付けてください。

⚠警　告

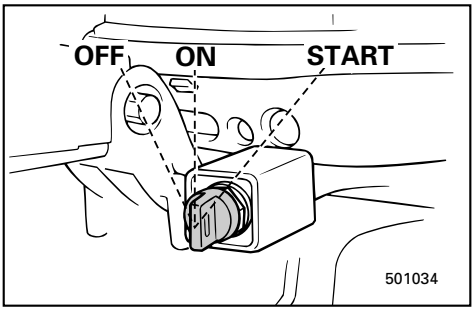
- **操船中は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に取り付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを取り付けないでください。**
  操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引っかかって不意にロックプレートが外れないようにしてください。もし外れると、急減速して操船に支障をきたすばかりでなく、同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

要　点

ロックプレートが外れた状態では、エンジンの始動はできません。



① ロックプレート
② カールコード



JMC48110

エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止の操作をおこないます。作動は次のようになっています。

- **"OFF"の位置**

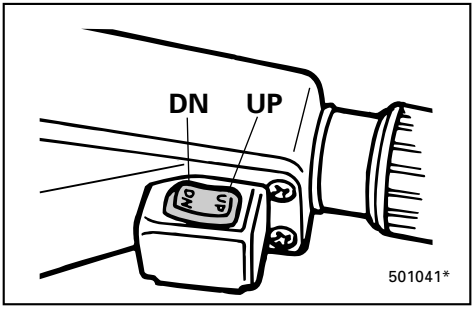
電気回路が遮断されエンジンが停止します。
(キーが抜ける状態です。)

- **"ON"の位置**

電気回路がつながり、アクセサリ等の使用ができます。
(キーは抜けません。)

- **"START"の位置**

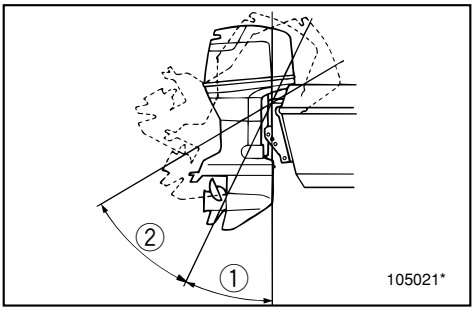
スタータモータが回って、エンジンが始動します。
(キーを離すと、自動的に"ON"の位置に戻ります。)



JMD20310

パワートリム・チルトスイッチ

ティラハンドルの下面に付いています。
ボートトランサムからの船外機の角度が調整できます。
"UP"側のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。
"DN"側のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。
スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

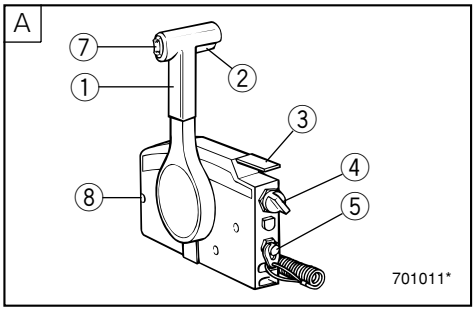


⚠警　告

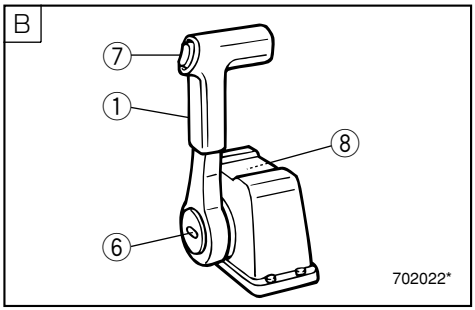
過度なトリム角度の調整をおこなうと、ボートの安定性や操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じたときは、航走スピードを落としてトリム角度の再調整をおこなってください。

① トリム域
② チルト域

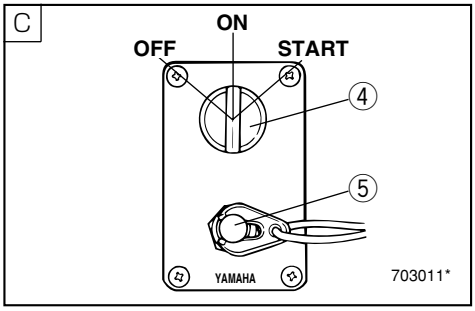
A



B



C



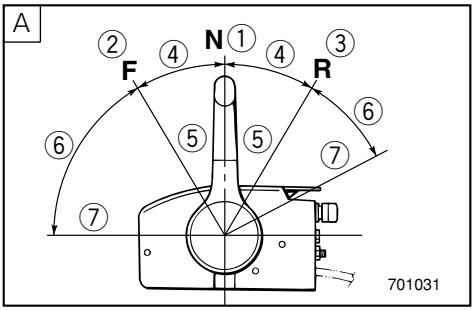
JMC80810

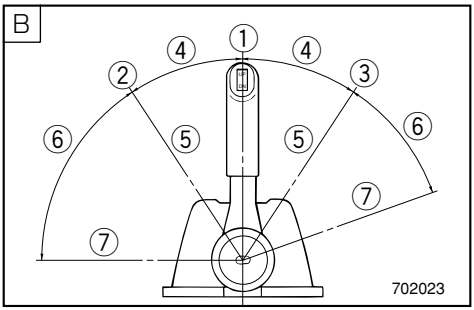
リモートコントロール

シフト、スロットル、および電動の遠隔操作等が行なえます。

① リモコンレバー
② ニュートラルインタロック
③ ニュートラルスロットルレバー
④ エンジンスイッチ
⑤ 緊急エンジン停止スイッチ
⑥ フリーアクセレータボタン
⑦ パワートリム・チルトスイッチ
⑧ リモコンレバーフリクション調整スクリュ

[A] サイドマウントリモートコントロールボックス
[B] トップマウントリモートコントロールボックス
[C] スイッチパネル（[B]とセット）



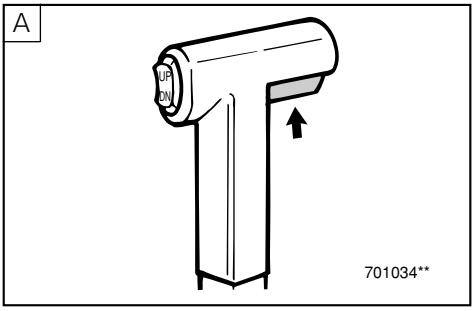


JMC50010

リモコンレバー

レバーを中立（ニュートラル）から約35°（軽く止まる位置）船首側へ倒せば前進に、船尾側へ倒せば後進にギヤが入り最低速回転で航走をはじめます。更に、そこからレバーを倒していくと加速をはじめます。

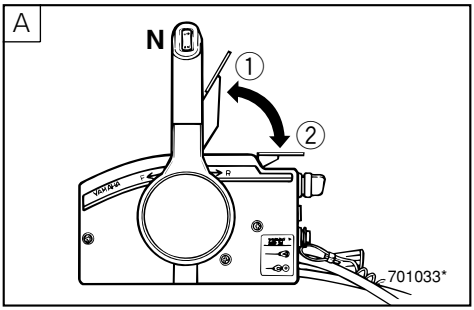
① 中立（ニュートラル）
② 前進
③ 後進
④ シフト域
⑤ スロットル全閉
⑥ スロットル域
⑦ スロットル全開



JMC50110

ニュートラルインタロック

リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置で保持します。
前進や後進へシフトする際は、最初に赤色ノブを引き上げてからリモコンレバーを動かします。



JMC50210*

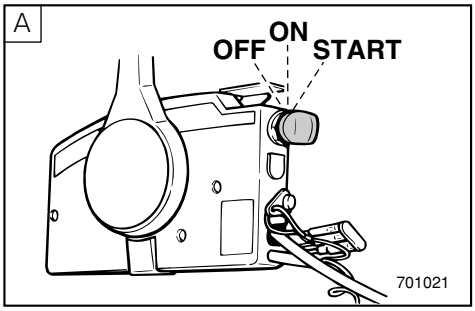
ニュートラルスロットルレバー

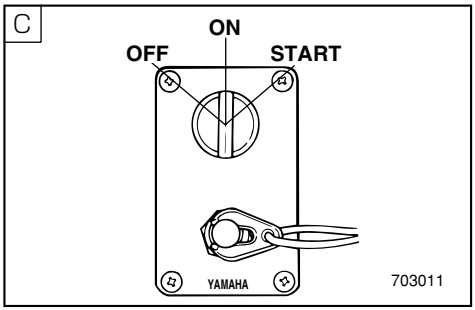
中立（ニュートラル）の状態で、スロットルの開閉操作がおこなえます。

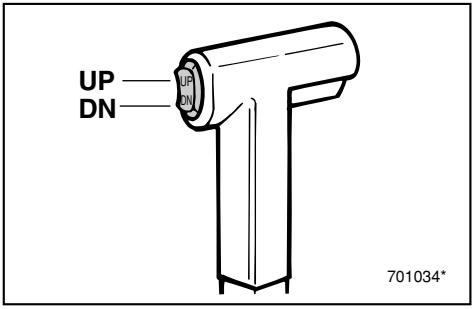
要　点

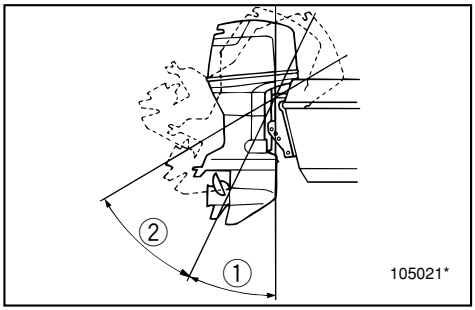
ニュートラルスロットルレバーは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。また、リモコンレバーはニュートラルスロットルレバーが全閉の状態でなければ操作できません。

① 全開
② 全閉









JMC48110

エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止の操作をおこないます。作動は次のようになっています。

- **"OFF"の位置**

電気回路が遮断されエンジンが停止します。（キーが抜ける状態です。）

- **"ON"の位置**

電気回路がつながり、アクセサリ等の使用ができます。
（キーは抜けません。）

- **"START"の位置**

スタータモータが回って、エンジンが始動します。
（キーを離すと、自動的に"ON"の位置に戻ります。）

JMU00543

パワートリム/チルトスイッチ

ボートトランサムからの船外機の角度が調整できます。
"UP"側のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。
"DN"側のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。
スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

⚠警　告

過度なトリム角度の調整を行なうと、ボートの安定性や操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じたときは、航走スピードを落としてトリム角度の再調整をおこなってください。

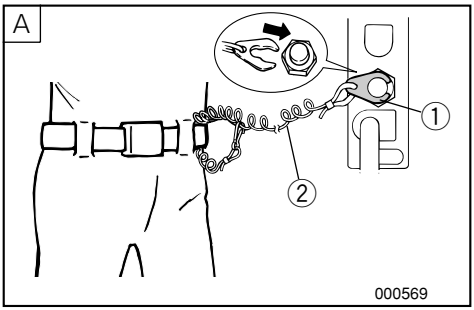
① トリム域
② チルト域

JMC28210

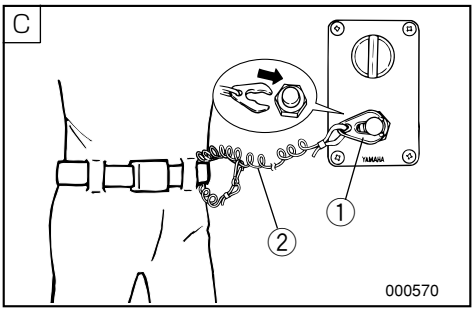
緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船席から放り出されたときに、カールコードが伸び、ロックプレートが外れてエンジンが停止するようになっています。この目的は、船の暴走を防ぐためです。カールコード端のロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに取り付けなければエンジンの運転はできません。カールコードは確実に操船者の衣服や手、足に取り付けてください。

A



C



⚠警　告

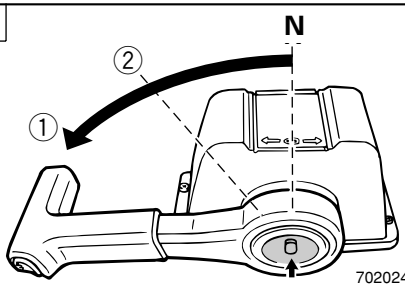
- **操船中は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に取り付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを取り付けないでください。**
  操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引っかかって不意にロックプレートが外れないようにしてください。もし外れると、急減速して操船に支障をきたすばかりでなく、同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

要　点

ロックプレートが外れた状態では、エンジンの始動はできません。

① ロックプレート
② カールコード

B



JMC81110

フリーアクセレータボタン

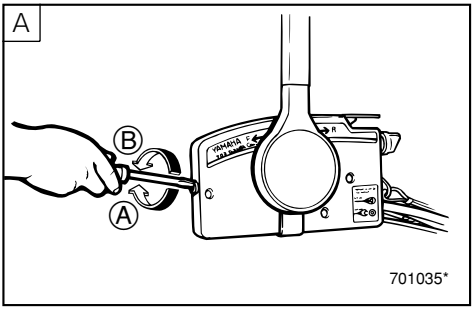
中立（ニュートラル）の状態で、このボタンを押したままリモコンレバーを前進側へ倒すことでスロットルの開閉操作が行なえます。

要　点

- フリーアクセレータボタンは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。
- フリーアクセレータボタンを押した状態でも、リモコンレバーを約35°以上倒さなければスロットルは開きません。
- フリーアクセレータボタンは、リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置に戻せば自動的に戻り、通常の前進や後進の操作ができます。

① 全開
② 全閉

A



JMC87011

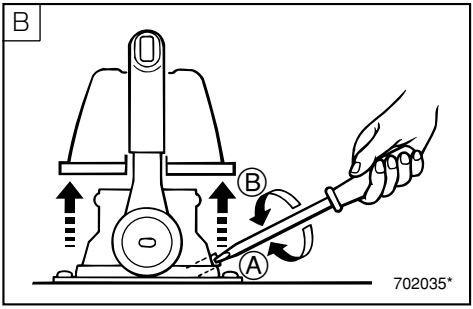
リモコンレバーフリクション調整スクリュ

サイドマウントリモートコントロールボックスは前面に、トップマウントリモートコントロールボックスはカバーを外したところにあります。

操船者の好みに合わせて、リモコンレバーの動きの重さが調整できます。

スクリュ	リモコンレバーの動き
時計方向に回す Ⓐ	重たくなる
反時計方向に回す Ⓑ	軽くなる

B



⚠警　告

調整スクリュは、締めすぎないようにしてください。リモコンレバーの動きの抵抗が大きすぎると、操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

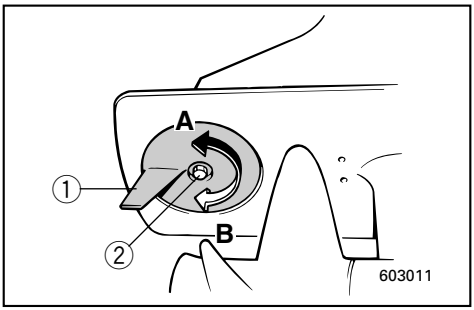
JMD04011

トリムタブ

航走中にステアリングが左、または右にとられる場合に、その調整をするためのものです。

⚠警　告

トリムタブの調整が悪いと操船に支障をきたします。
トリムタブを交換した場合等は、試走してステアリングの状態を確認してください。
トリムタブの調整等をおこなった後は、ボルトを確実に締めてください。



① トリムタブ
② ボルト
③ キャップ(装備されている場合)

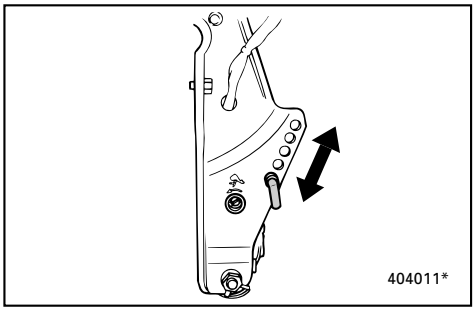
ステアリング	トリムタブのフィン
左舷にとられる場合	左舷側へ回すⒶ
右舷にとられる場合	右舷側へ回すⒷ

⚠注　意

トリムタブは電食からエンジンを保護するために、アノードの役目を兼ねています。決してペンキ等を塗らないようにしてください。

要　点

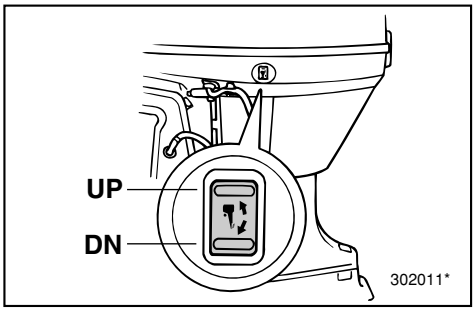
トリムタブは、使用頻度の多い航走スピードに合わせて調整してください。
航走スピードやトリム角度が変われば、トリムタブの効果も変化します。



JMD06010

チルトピン

チルトピンの位置を変えることで、基本となるトリム角度を変えることができます。



JMD20110

パワートリム•チルトスイッチ（パワートリム•チルト仕様）

ボートトランサムからの船外機の角度はパワートリム•チルトスイッチで調整できます。パワートリム•チルトスイッチは、ボトムカウリングに付いています。

“UP”のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上って行きます。

“DN”のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下って行きます。

スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

⚠警　告

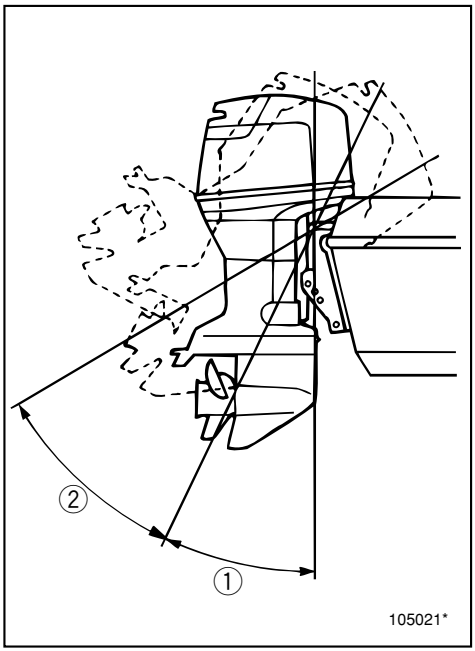
過度なトリム角度の調整を行なうと、ボートの安定性や操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。

ボートの安定性や操船に異常を感じた場合、航走スピードを落して、トリム角度の再調整を行なってください。

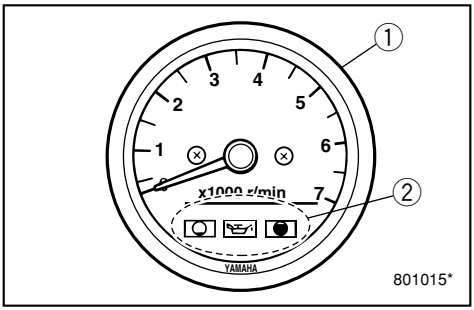
要　点

リモートコントロールボックスのリモコンレバーにもパワートリム•チルトスイッチが付いています。

両方とも同じ機能です。



① トリム範囲
② チルト範囲



JMD24011

タコメータ（エンジン回転計）

このメータには、次の機能があります。

① タコメータ(エンジン回転計)
② オイル残量警告灯

JMD21010

タコメータ(エンジン回転計)

1分間あたりのエンジンの回転数を表示します。

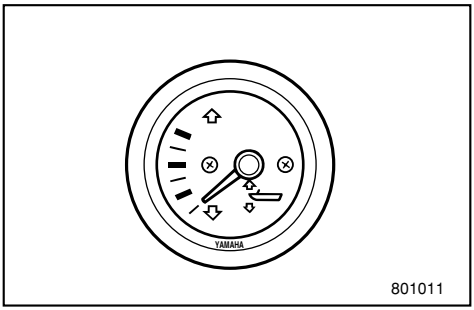
JMD31110

オイル残量警告灯

タコメータ内の各灯火は、オイル残量の状態を表示します。
表示の詳細は、"オイル残量警告の表示"の項をご覧ください。

⚠注　意

オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。
重大な損傷を招く恐れがあります。



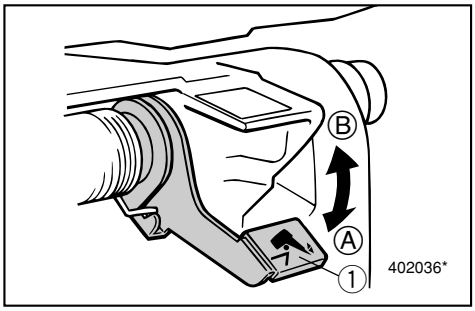
JMD26010

トリムメータ（パワートリム•チルト仕様）

船外機のトリム角度を表示します。

要　点

ボートの積載状態に応じた最良のトリム角度を覚えておくと便利です。
パワートリム•チルトスイッチの操作で望むトリム角度への調整ができます。

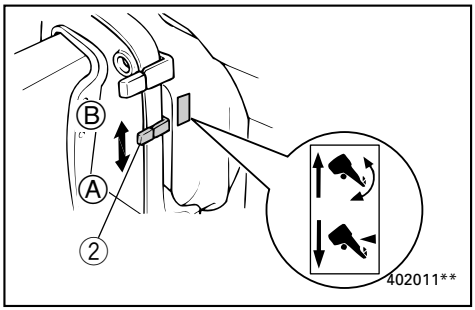


JMD44010

チルトロック機構
（マニュアルチルト仕様）

チルトロック機構は、後進時にプロペラのはね上りを防止するためのものです。チルトロックレバーが上の位置Ⓑではロック状態で、下の位置Ⓐでは解除となります。

① チルトロックレバー



JMD45010

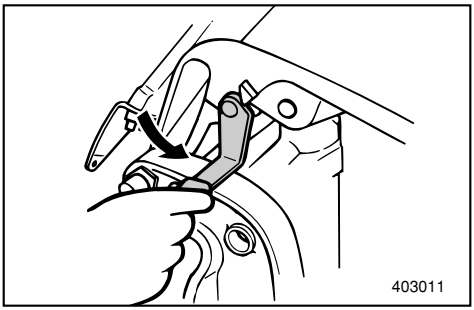
チルトロック機構
（ハイドロチルト仕様）

チルトロック機構は、後進時にプロペラのはね上りを防止するためのものです。チルトロックレバーが下の位置Ⓐではロック状態で、上の位置Ⓑでは解除となります。

② チルトロックレバー

要　点

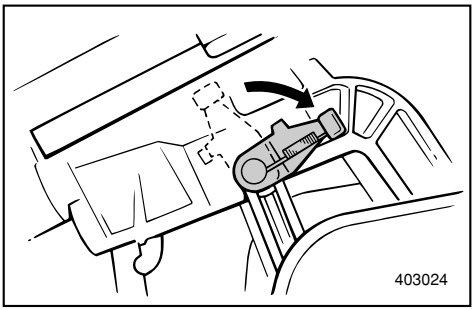
チルトロック機構（ハイドロチルト仕様）は、半分チルトアップした状態を保持して、浅瀬航走を行なうことができます。操作方法は“浅瀬航走”の項目をご覧ください。



JMD60010

チルトサポートレバー

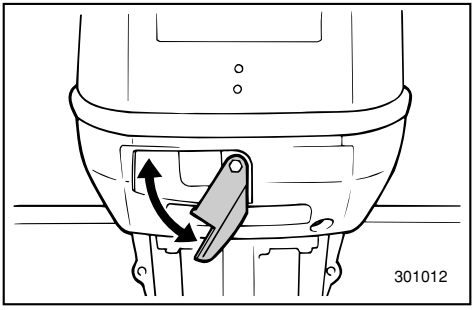
完全にチルトアップした状態を保つ時に、チルトサポートレバーを降ろして保持します。



JMD60110

チルトサポートレバー（マニュアルチルト仕様）

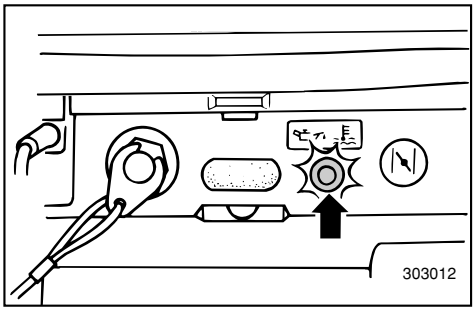
船外機をいっぱいまでチルトアップした後、レバーを時計方向に回し長穴上部の溝にはめ込むことによりチルトアップ状態で船外機を保持します。



JMD62010

トップカウル脱着レバー

トップカウルを外す時は、ロックレバーを下へ押し下げロックを解除し、トップカウルの後部から持ち上げて外します。
取り付けは逆の手順で行います。その時に、ゴムシールがきちんとはまっていること、および確実にロックされていることを確認してください。

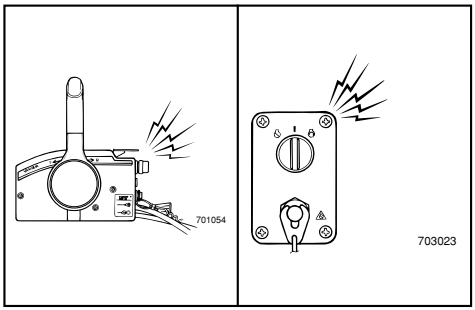


JMD80010

警告装置

⚠警　告

警報機構が作動した時は、エンジンを停止してください。
原因究明とその処置が出来ない場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。



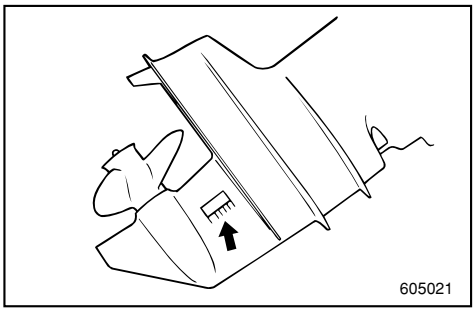
JMD82110

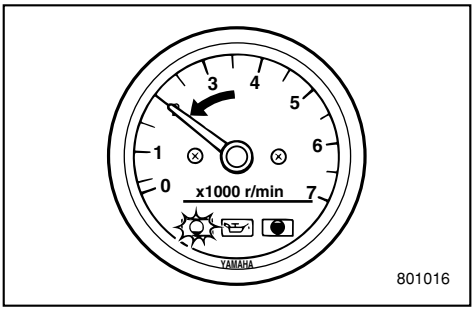
オーバヒート警告

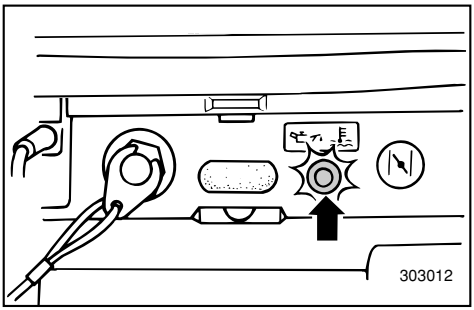
この船外機には、オーバヒート警告機構が装備されています。
エンジンの温度が異常に上昇したときには、次のように警告機構が作動をします。

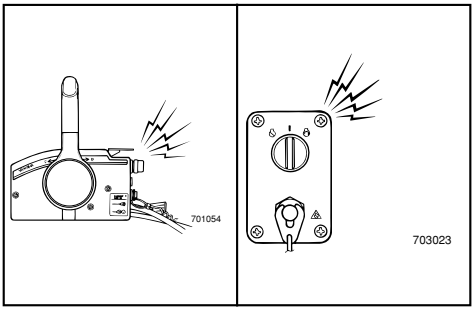
1） エンジン回転数が自動的に低下します。
2） ボトムカウル上、またはタコメータ内の警告灯が点灯します。
　　同時にリモートコントロール仕様は、ブザーが鳴り事態を知らせます。

オーバヒート警告機構が作動した場合は、エンジンを停止して冷却水吸水口の詰まりを点検してください。









JMD84610

オイル残量・オイルフィルタ詰まり警告

この船外機には、オイル警告機能が装備されています。
オイルの残量が下限レベルに達すると、次のように警告機能が作動をします。

1） エンジン回転数が自動的に低下します。
2） ボトムカウル上、またはタコメータ内の警告灯が点灯します。
同時にリモートコントロール仕様は、ブザーが鳴り事態を知らせます。

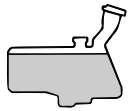
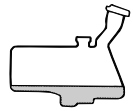
オイル残量警告機能が作動した場合は、エンジンを停止して原因を調べてください。

要　点

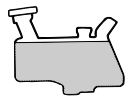
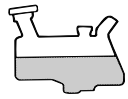
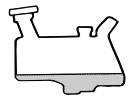
オイルフィルタ詰まりの警告は、オイル残量警告やオーバヒート警告とたいへんよく似ています。簡単な調べ方は、まず最初に冷却水吸水口の詰まりを調べ、次にオイル残量を調べ、最後にオイルフィルタの詰まりを調べます。

オイル残量警告
警告の表示は、次のようになっております。

ティラハンドル仕様

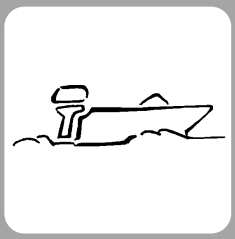
警告灯	オイルタンク内 オイル残量	備考
消灯	 200cm³以上	補給の必要なし。
赤 点灯	 200cm³未満	• エンジン回転数の低下。 • オイルフィルターの詰まりの点検。 • ただちにオイルの補給

リモートコントロール仕様

警告灯	オイルタンク内 オイル量	備考
緑	 450cm³以上	補給必要なし。
黄	 450cm³未満 200cm³以上	オイルを補給。
赤	 200cm³未満	• エンジンの低下、ブザー音。 • オイルフィルタ詰まりの点検。



—メモ—





JMF00010

第 3 章
運転と操作

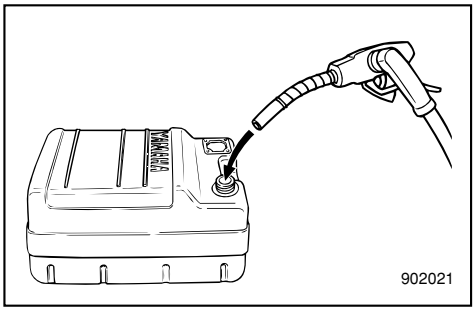
船外機の取り付け 3-1
燃料とオイルの給油 3-2
　燃料タンクへの給油 3-2
　オイルの補給（分離給油仕様）.....3-2
出港前の点検.....3-4
長期保管後の運転について.....3-5
慣らし運転.....3-6
エンジン始動.....3-8
暖機運転 3-12
前進・後進.....3-13
エンジン停止.....3-15
船外機トリム角度 3-16
　トリム角度の調整 3-17
浅瀬航走 3-19
チルトアップ.....3-20
　チルトアップと
　チルトダウン.....3-20, 3-22, 3-23
他の航走状況.....3-24
　塩水での使用 3-24
　泥水での使用 3-24

JMF10110

船外機の取り付け

⚠警　告

船外機の取り付けが不適切な場合は、ステアリングが十分に切れなかったり、操船不能に陥ったり、または火災等の原因となる恐れがあります。
ボルトを使って取り付ける場合は、必ずヤマハ取扱店で行なってください。



JMU00608

燃料とオイルの給油

JMU00609

燃料タンクへの給油

1) 燃料タンクキャップを外します。
2) 注意しながら給油します。
3) 給油後は確実に燃料タンクキャップを締めます。こぼれた燃料はふきとってください。

燃料タンクの容量：
第4章の仕様諸元をご参照ください。

JMU01833

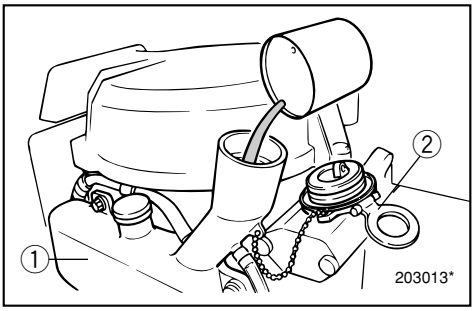
オイルの補給(分離給油仕様)

この船外機には、全ての運転状態に合わせて最適なオイルの混合を行ない適切な潤滑が得られるように“オイルインジェクションシステム”が装備されています。燃料に混合ガソリンを使う必要はありません(慣らし運転期間中は除く)。
オイルの残量はランプにより確認することが出来ます。
詳細は、“オイル残量表示”の項をご覧ください。
オイルの補給は、以下の手順で行ないます。

⚠警　告

オイルタンクの中には、ガソリンを入れないでください。火災や爆発の原因になります。

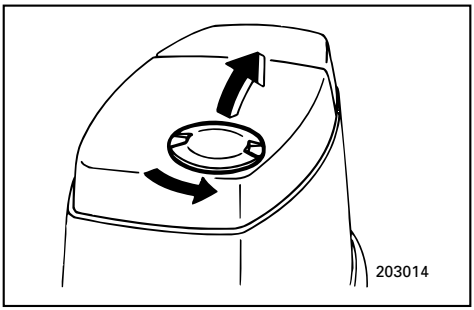
エンジンオイルタンク容量；
第 4 章の仕様諸元をご覧ください。



JMU01855

ティラハンドル仕様

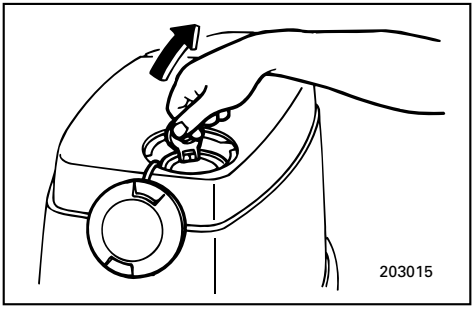
1) トップカウルを外します。
2) タブを引っ張って、オイルタンクキャップ②を外します。
3) ゆっくりとオイルタンク①の中にエンジンオイルを補給します。
4) 給油後はオイルタンクキャップを確実に取り付けます。
5) トップカウルを取り付けます。

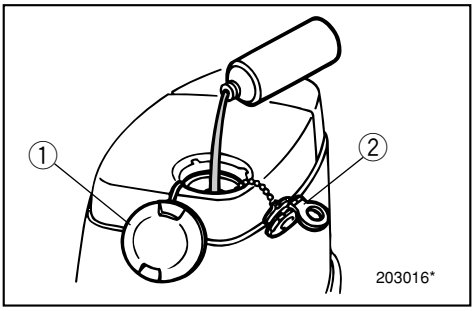


JMU01854

リモートコントロール仕様

1) トップカウル上のオイル給油キャップ①を反時計方向に回して外します。
2) タブを引いてオイルタンクキャップ②を外します。
3) オイルタンクの中にエンジンオイルを補給します。
4) 給油後はオイルタンクキャップを確実に取り付けます。
5) トップカウル上のオイル給油キャップを時計方向に回して締めます。





JMF40110

出港前の点検

⚠警　告

出港前点検で１ケ所でも不具合が見つかった時は、点検、整備をしてから出港してください。事故につながる恐れがあります。

燃料

- 燃料が満タンになっていることを確認してください。
- 燃料もれが無いことを確認してください。
- 燃料ホースの接続が確実に出来ていることを確認してください。
- 専用燃料タンクの場合は、水平な場所に置き、燃料ホースが折れ曲ったり、鋭びんなものと接触していないことを確認してください。

オイル

- 航行に必要なオイル量があることを確認してください。

作動系

- スロットル、シフト、ステアリングが正常に作動する事を確認してください。
- 各接続部の緩みや取付け状態を確認してください。
- 水上に降ろして、エンジン始動、停止スイッチの作動確認をしてください。

エンジン本体

- エンジン取付ボルトの緩みや取付け状態を確認してください。
- プロペラの損傷を確認してください。

⚠注　意

水から揚げてエンジンを始動させないでください。
オーバヒートや重大な損傷の原因になります。

JMF44010

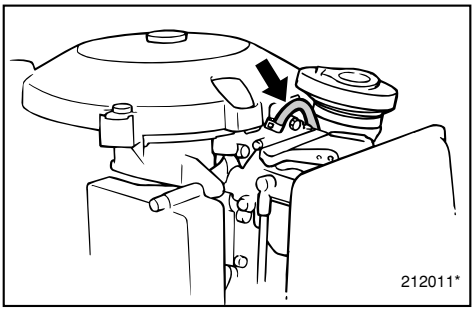
長期保管後の運転について

長期保管後に運転をするときは、次のようにしてください。

1）混合ガソリン（オイル：ガソリン＝1：50）を使ってエンジンを始動します。
2）アイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。

⚠警　告

- **エンジン運転中は、電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は、手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**



3）各オイルパイプにオイルが送られていることを点検します。
エアが排除されれば、正常な状態です。10分間運転してもオイルが送られていないときは、ヤマハ取扱店へご相談ください。

⚠注　意

長期保管後に運転するときは、上の手順通りに行なってください。
さもなければ、重大なエンジンの損傷を招く恐れがあります。

JMU01837

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。

⚠注　意

- **慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**
- **慣らし運転期間中は、オイルインジェクションシステムに加えて混合ガソリンを併用しなければなりません。**
- **慣らし運転後は、ガソリンのみを使用してください。混合ガソリンを続けて使用しますと、酸素センサが損傷する恐れがあります。**

慣らし運転時間：のべ10時間

慣らし運転時の混合比
　オイル：ガソリン＝1:50

JMF52010*

ガソリンとエンジンオイルの混合表

混合比	1：50		
オイル	0.5L	1L	4L
ガソリン	25L	50L	200L

⚠注　意

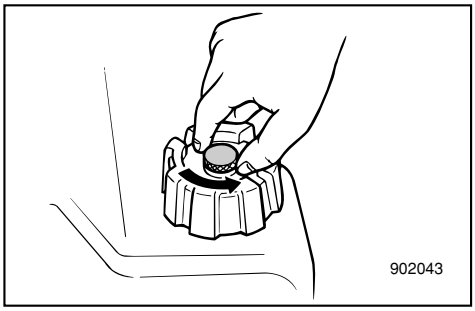
オイルとガソリンは良く混ざったものを使ってください。
さもなければ、船外機に損傷を与える恐れがあります。

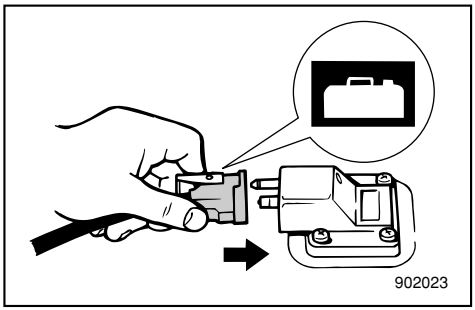
JMU01838

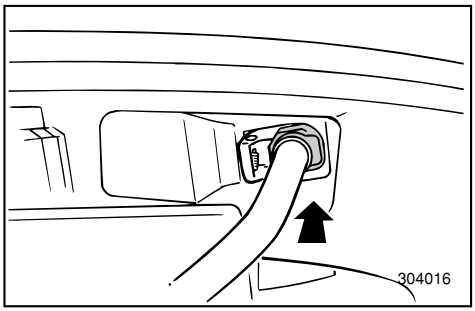
慣らし運転の手順

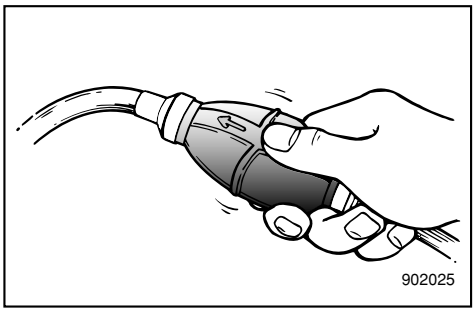
航走しながら負荷をかけて行ないます。

1) 最初の10分間
   最低速回転で使ってください。
2) 次の50分間
   スロットル開度を半分を越えない範囲で、時々エンジン回転数を変えて使ってください。
   軽荷なボートの場合は、エンジン回転数が一気に上がることがあります。その時は、ただちにスロットルを絞りエンジン回転数を下げて使ってください。
3) 次の2時間
   滑走するまでスロットルを全開にし、その後4分の3付近で時々エンジン回転数を変えて使ってください。同時に、10分間に1分間の割合で全開航走を繰り返してください。
4) 残りの7時間
   5分間を越えない範囲で、時々エンジン回転数を変えて全開航走を繰り返してください。
5) 10時間以降
   通常にご使用できます。
   燃料タンクには、ガソリンのみの給油としてください。オイルは、オイルインジェクションシステムによって適量が供給されます。









JMF58011

エンジン始動

⚠警　告

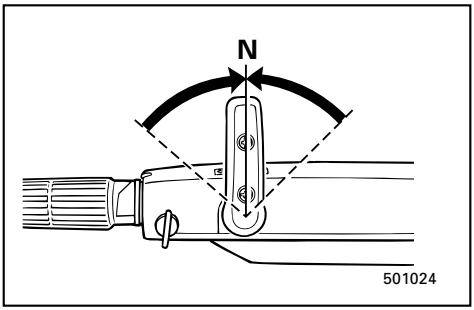
エンジン始動前には、ボートを確実に係留し、付近に障害物等や遊泳者が居ないことを確認してください。

⚠警　告

燃料ホースコネクタを接続する時は、燃料がにじみ出たり、燃料の揮発蒸気が発生することがあります。タバコ等の火気や火種になるようなものを近づけないでください。

1) 燃料タンクキャップにエアベントスクリュが装備されているものは、2〜3回緩めます。
2) 燃料ホースコネクタの有る機種は、燃料ホースを確実に接続します。また、燃料タンク側にも同様に接続します。

3) プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。



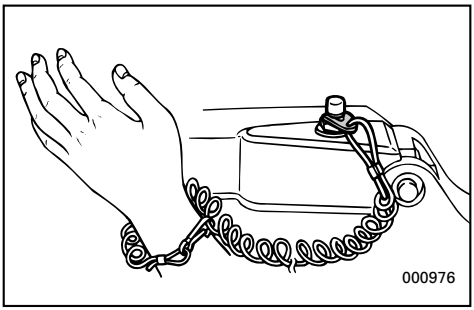
JMU01525

ティラハンドル仕様の手順

4) ギヤシフトレバーを中立(ニュートラル)にします。

要　点

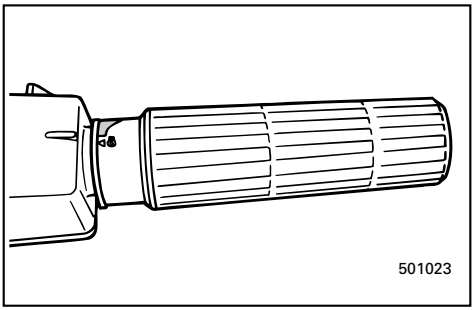
始動安全装置が作動するため、中立(ニュートラル)でなければエンジンの始動は出来ません。



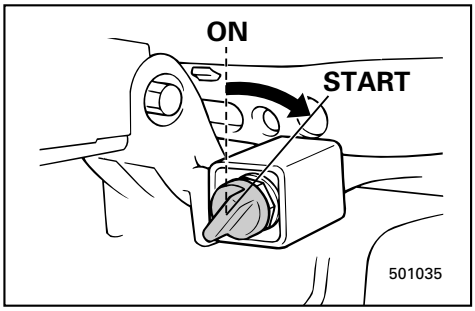
5) カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に着け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

⚠警　告

- **操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**



6) スロットルコントロールグリップを始動位置にします。



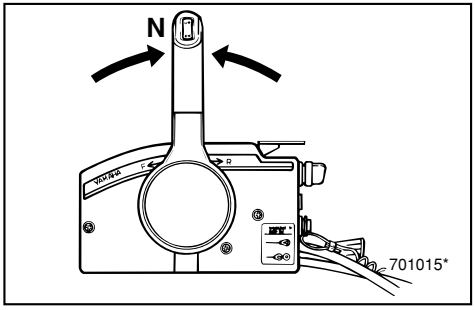
JMF63910*

電動始動の場合

7) エンジンスイッチを"START"の位置まで回してエンジンを始動させます。
8) 始動後はただちにスイッチを"ON"の位置にします。

⚠注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。**
  5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒たってからもう一度行なってください。スタータモータを5秒以上連続して回すと、バッテリが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチを"START"の位置にしないでください。**



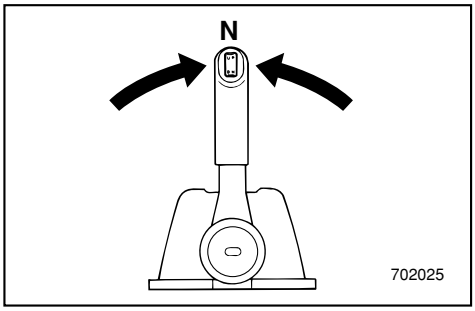
JMF65010*

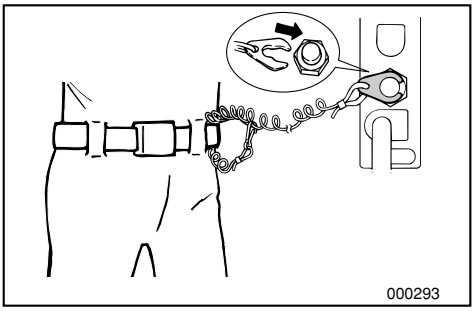
リモートコントロール仕様の始動手順

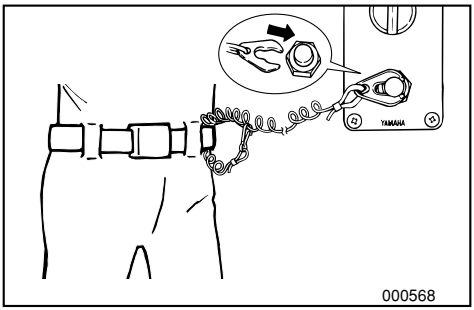
4) リモコンレバーを中立(ニュートラル)の位置にします。

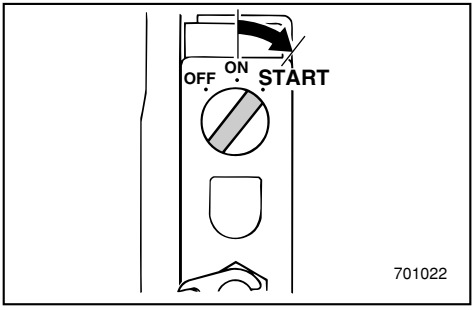
要　点

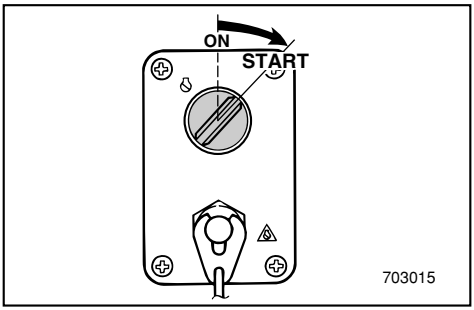
始動安全装置が作動するため、中立(ニュートラル)の状態でなければ、エンジンの始動はできません。











5) カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足にしっかりと付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

⚠警　告

- **操船中は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを付けないでください。操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。**
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引掛って不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、もし外れると急減速して同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

6) エンジンスイッチを"ON"の位置まで回します。

JMF63910*

電動始動の場合

7) エンジンスイッチを"START"の位置まで回してエンジンを始動させます。
8) 始動後はただちにスイッチを"ON"の位置にします。

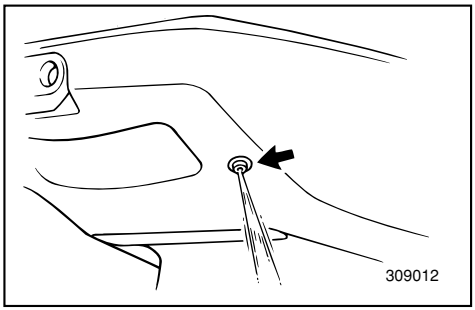
⚠注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。**
  5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒たってからもう一度行なってください。スタータモータを5秒以上連続して回すと、バッテリが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチを"START"の位置にしないでください。**

JMF73010

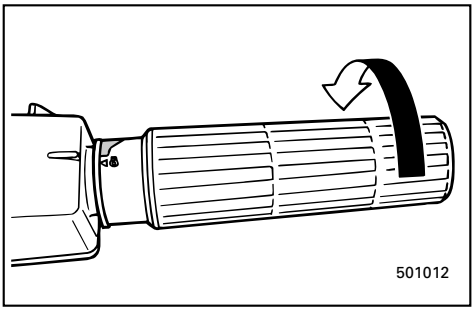
暖機運転

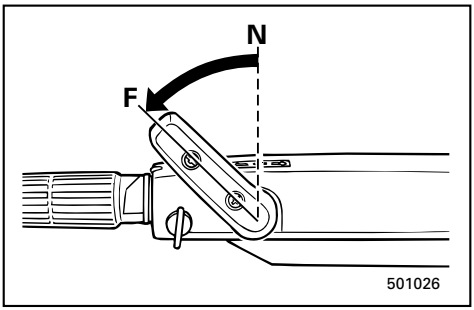
1） エンジン始動後は、 3 分間以上、アイドリング状態でエンジンを運転して暖めてください。（暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短かくなることが考えられます。）
2） 冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを確認してください。

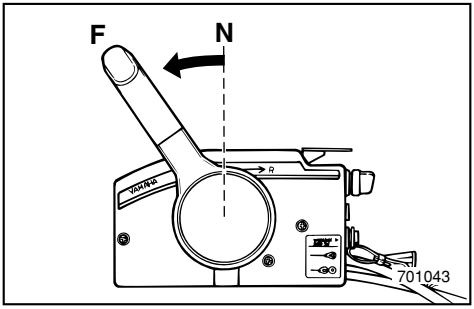


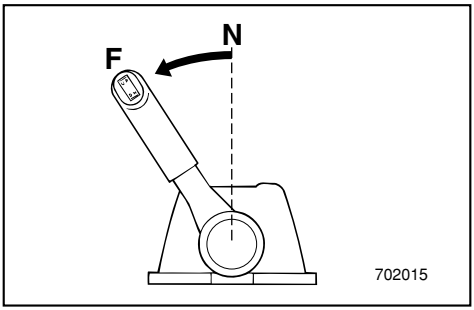
⚠注　意

冷却水点検孔から勢いよく水が出ている状態は、ポンプが冷却水をくみ上げ、エンジン内を循環させていることを示します。
冷却水点検孔から水が出ていない時は、オーバヒートや大きな損傷の原因となりますので、使用を中止してください。
冷却水吸水口が詰まっている場合は、エンジンを停止させてから取り除いてください。回復しない時は、ヤマハ取扱店へご相談ください。









JMG20111

前進・後進

⚠警　告

前進、後進をする前には、付近に遊泳者や障害物等が無いことを確認してください。

⚠注　意

前進、後進の操作を行なうときは、エンジン回転を最低速回転の状態まで下げてから行なってください。

JMG22310

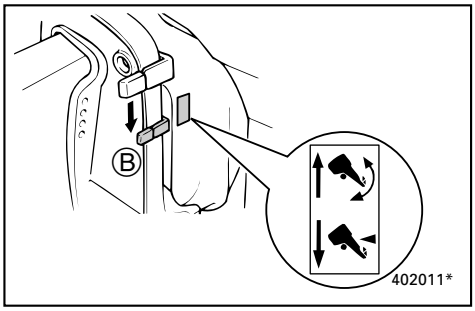
前進

ティラハンドル仕様

1) スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。
2) すみやかにギヤシフトレバーを前進側(船首側)へ倒します。

リモートコントロール仕様

ニュートラルインタロック（サイドマウント仕様）を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを前進側(船首側)へ倒します。

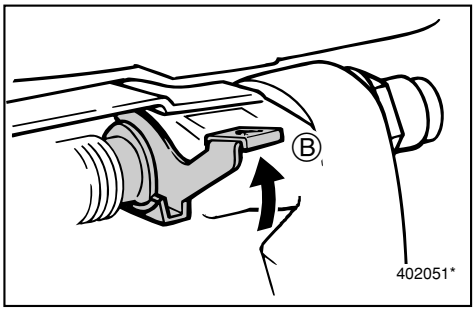


JMG33610

後進

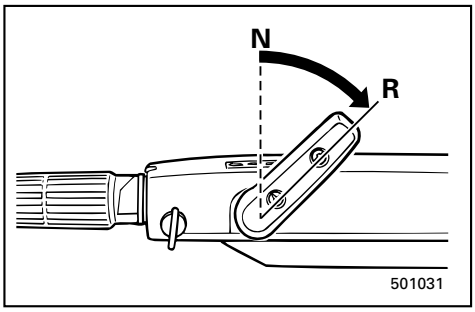
⚠警　告

後進する際は、ゆっくりと行なってください。
スロットルを半分以上、開けないでください。ボートが不安定になり操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。

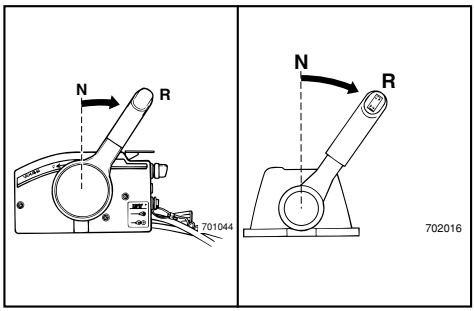


ティラハンドル仕様

1) スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。
2) ハイドロチルト/マニュアルチルト仕様は、チルトロックレバーをロックの状態Ⓑにします。

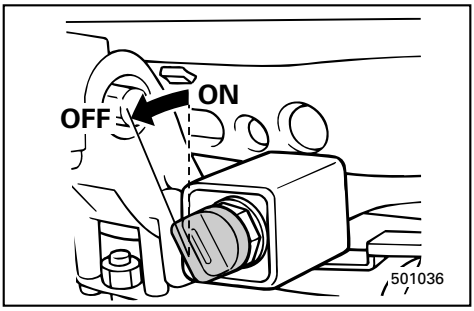


3) すみやかにギヤシフトレバーを後進側(船尾側)へ倒します。



リモートコントロール仕様

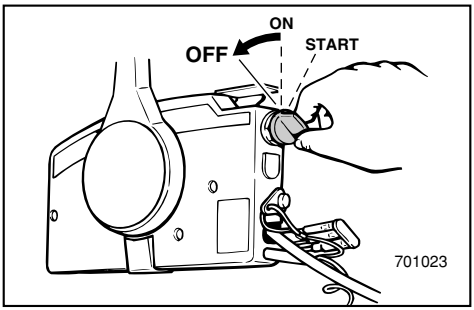
1) ハイドロチルト/マニュアルチルト仕様は、チルトロックレバーをロックの状態Ⓑにします。
2) ニュートラルインタロック（サイドマウント仕様）を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを後進側(船尾側)へ倒します。



JMG38010

エンジン停止

数分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを冷やしてから行なってください。
高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

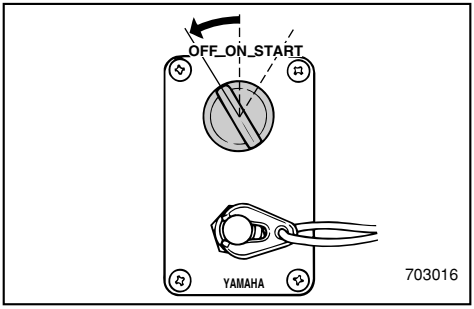


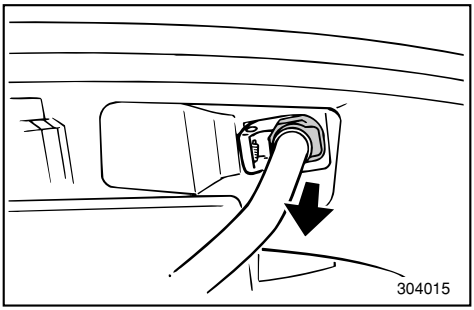
JMG35310*

1) エンジンスイッチを"OFF"の位置へ回します。

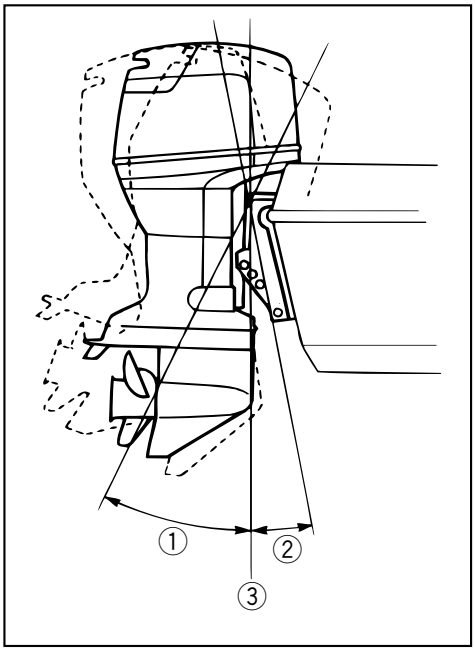
要　点

カールコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。
この時、エンジンスイッチは必ず"OFF"にしておきます。





2) エンジン停止後は燃料ホースコネクタを外します。
3) 燃料タンクにエアベントスクリュがある場合は閉めます。
4) キーを抜きます。



JMG60310

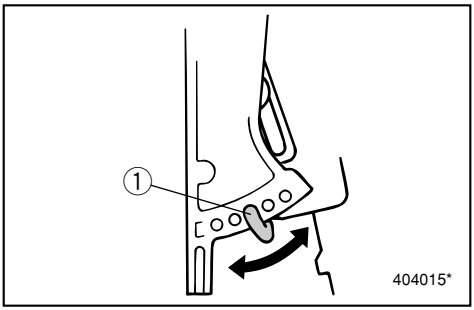
船外機トリム角度

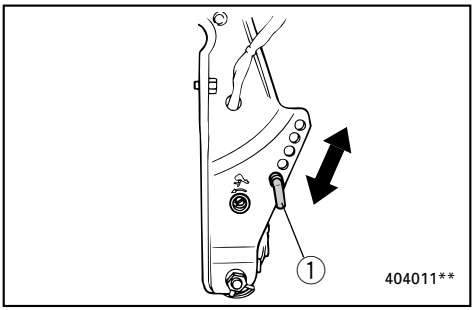
船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の位置決めに使います。
トリム角度が良いと、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。
適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合せで決まります。
また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。

⚠警　告

過度なトリム角度の調整を行なうと、ボートの安定性や操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。
ボートの安定性や操船に異常を感じた場合、航走スピードを落して、トリム角度の再調整を行なってください。

① トリム域（0°～20°）
② トリム域（−4°～0°）
③ 垂直状態





JMU00682

トリム角度の調整

船外機トリム角度の調整用の穴がブラケットに4または5ヵ所用意されています。

1) エンジンを止めます。
2) 少しチルトアップした状態でチルトピンを外します。
3) チルトピンを再び好みの穴位置に差し込みます。

船首を上げとるきは、上方の穴にチルトピンを差し込みます。
船首を下げるときは、下方の穴にチルトピンを差し込みます。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでくだい。

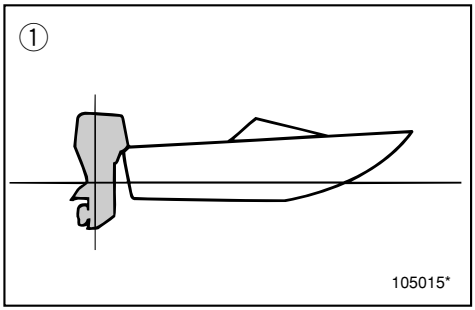
① チルトピン

⚠警　告

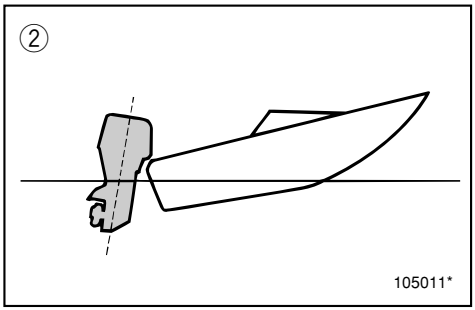
- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを外したり差し込んだりする場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

要　点

船外機のトリム角度は、チルトピンを１段ずらすことにより約４°変わります。



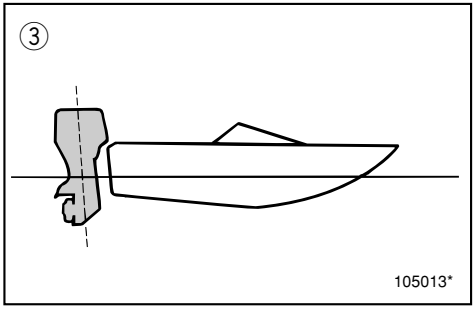
ボートが滑走している時、一般的に船首はキールラインが水面よりも3°～5°上っている状態が安定性も良く、効率も良くなります。船外機トリム角度を大きく取った時、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。この場合、ステアリング操作で補ってください。または、トリムタブの調整で補うこともできます。



船首上り

船外機のトリム角度を大きく取りすぎると、航走中に船首が上りすぎます。この場合、船底への水の抵抗が増え、性能や燃費が低下します。

過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを起こし、大きな性能低下を招きます。トリム角度が大きすぎると、ボートが飛び跳ね、乗員が船外へ投げ出される恐れがあります。



船首下り

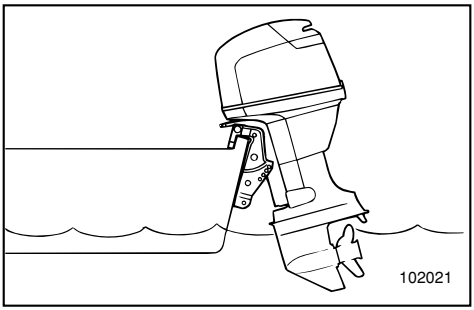
船首が下がっている時、停止状態からの発進加速が良くなります。

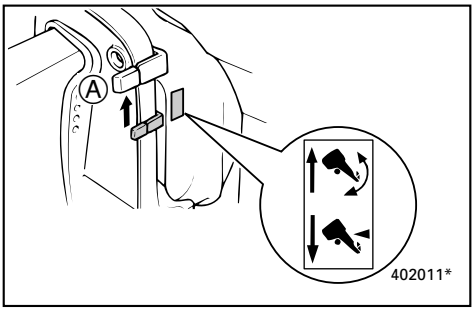
高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。

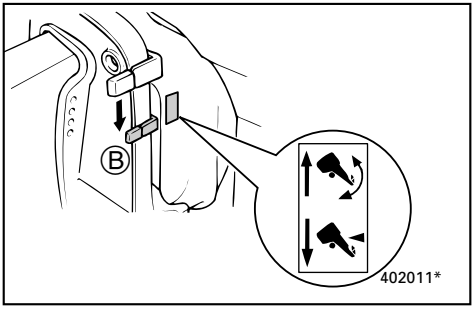
① トリム角適正
② 船首上り（トリム角大）
③ 船首下り（トリム角小）

要　点

ボートの種類によっては、船外機トリム角度の調整を行なっても、航走姿勢が殆んど変化しないこともあります。







JMG84010

浅瀬航走
（ハイドロチルト仕様）

ハイドロチルト仕様の船外機は、少しチルトアップして浅瀬を航走できます。

⚠注　意

- **シフトを中立（ニュートラル）にしてから、浅瀬航走の操作をしてください。**
- **水深の深いところへ出たら、ただちに元の位置に戻してください。**

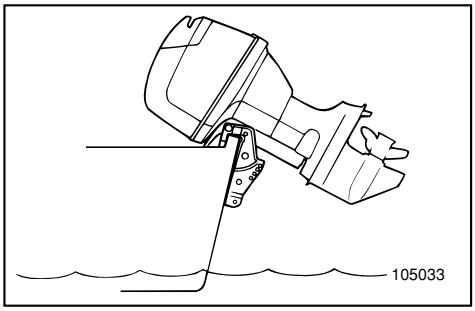
浅瀬航走セットの手順

1） チルトロックレバーを解除の位置Ⓐにします。
2） 好みの位置までチルトアップし、チルトロックレバーをロックの位置Ⓑへ戻します。

⚠注　意

浅瀬航走の際は、エンジンがオーバヒートしないように、冷却水吸水口が水面上に出るまでチルトアップをしないでください。

3） 元の状態に戻すには、チルトロックレバーを解除の位置Ⓐにし、ゆっくりとチルトダウンさせます。
4） チルトロックレバーをロックの位置Ⓑにします。



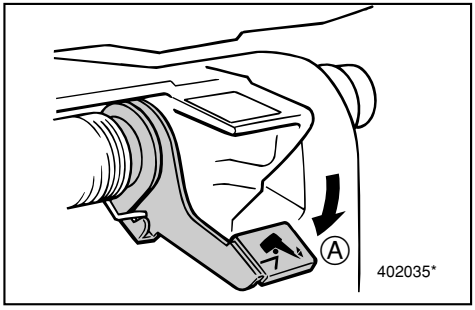
JMH20210*

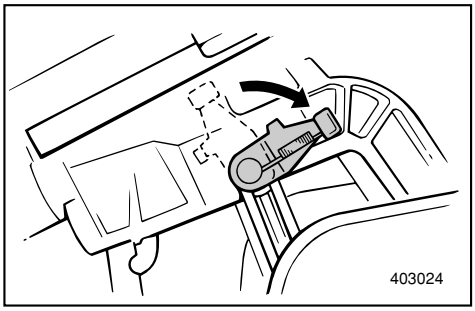
チルトアップ

係留保管や浅瀬で係留する場合等、電食や海草類の付着によってプロペラやロワケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

⚠注　意

- **エンジンを停止してから、チルトアップしてください。エンジン運転中の状態でチルトアップするとオーバヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラハンドルの損傷をさけるために、ティラハンドルを押さえつけて、チルトアップしないでください。**





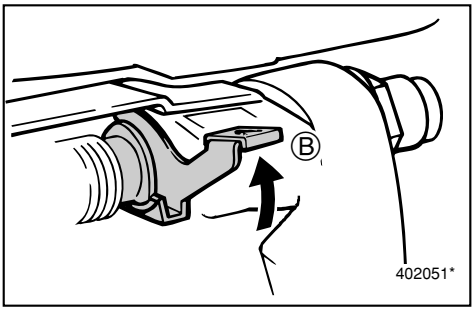
チルトアップとチルトダウン（マニュアルチルト仕様）

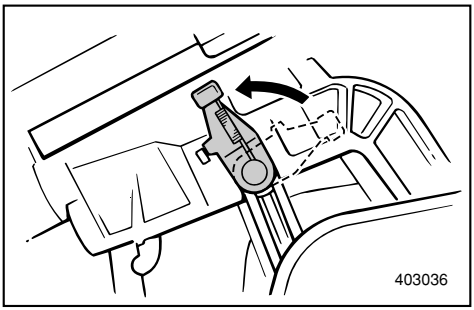
チルトアップの手順

1）チルトロックレバーを解除の位置Ⓐへ押し下げます。
2）トップカウルの後部を持ち、いっぱいまでチルトアップしたまま、スイベルブラケットのチルトサポートレバーを時計方向に回し長穴上部の溝にはめ込みチルトアップ状態を保持させます。
3）燃料ホースコネクタを外します。

⚠警　告

長時間、チルトアップする時は、燃料もれによる火災をさけるために、船外機側の燃料ホースコネクタを外してください。

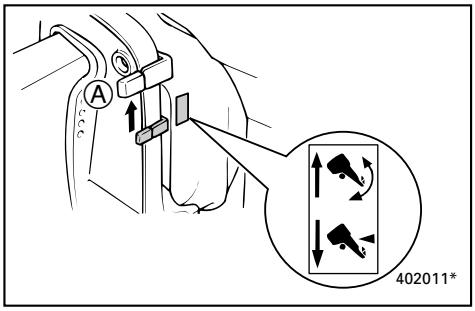




チルトダウンの手順

1） チルトロックレバーをロックの位置Ⓑに戻します。

2） トップカウルの後部を持ち、更に少しチルトアップします。
この時、チルトサポートレバーを元の位置まで戻し、ゆっくりとチルトダウンします。

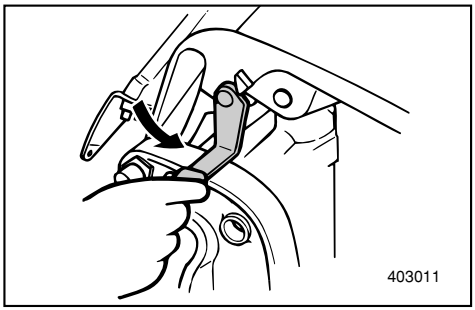


JMH25010−*

チルトアップとチルトダウン（ハイドロチルト仕様）

チルトアップの手順

1） チルトロックレバーを解除の位置Ⓐにします。

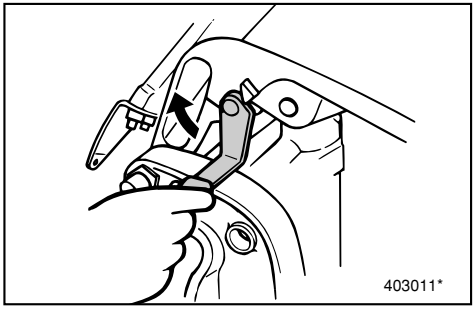


2） 片手でトップカウルの後部を持ちチルトアップします。この時、チルトサポートレバーを回して、船外機をささえます。

3） 燃料ホースコネクタを外します。

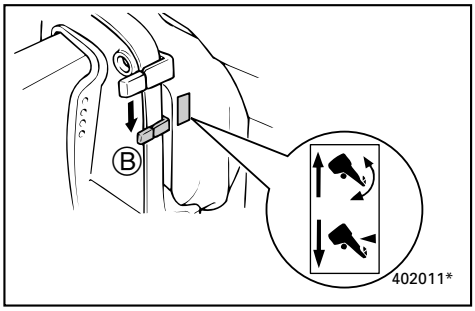
⚠警　告

長時間、チルトアップする時は、燃料もれによる火災をさけるために、船外機側の燃料ホースコネクタを外してください。

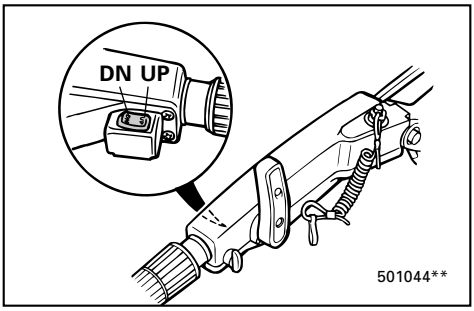


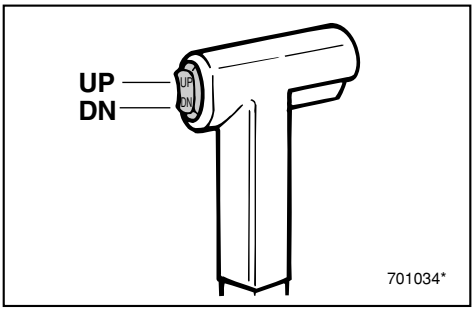
チルトダウンの手順

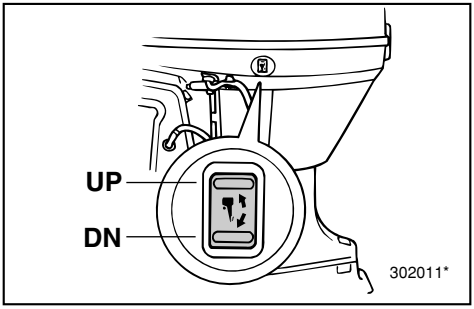
1） 片手でトップカウルの後部を持ち、少しチルトアップします。この時、チルトサポートレバーを元の位置まで戻し、ゆっくりとチルトダウンします。

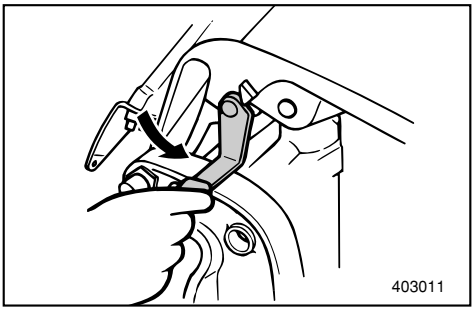


2） チルトロックレバーをロックの位置Ⓑに戻します。









JMH23210

チルトアップとチルトダウン（パワートリム•チルト仕様）

チルトアップの手順

1） 船外機が完全にチルトアップするまで、パワートリム•チルトスイッチの“UP”側を押します。

⚠警 告

チルト操作を行なっている時は、船外機の附近に人が居ない事を確かめてください。また、ドライブユニットとエンジンブラケットの間に体を挟まれないように注意してください。

2） チルトサポートレバーをエンジンブラケットの方へ回して、船外機をささえます。

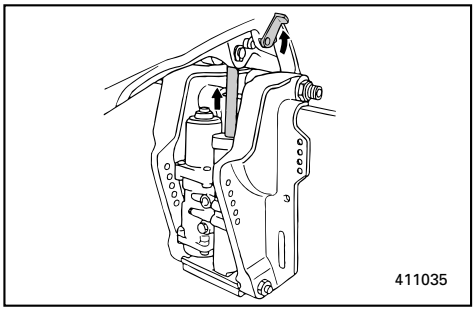
⚠警 告

パワートリム•チルトユニットの油圧が抜けて、船外機が降りて来る場合がありますので、チルトアップ後は、必ずチルトサポートレバーで保持してください。

3） 燃料ホースコネクタを外します。

⚠警 告

長時間、チルトアップする時は、燃料もれによる火災をさけるために、船外機側の燃料ホースコネクタを外してください。



チルトダウンの手順

1）チルトロッドが伸びきるまで、パワートリム•チルトスイッチの“UP”側を押します。
2）チルトサポートレバーを元の位置に戻します。
3）パワートリム•チルトスイッチの“DN”側を押し、好みの位置までチルトダウンします。

JMH60010

他の航走状況

塩水での使用

塩水で使用した後は、塩の結晶で冷却水経路が詰まらないように、真水で洗浄してください。

要　点

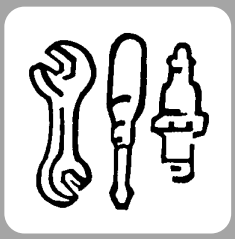
第4章の“運搬と保管”の冷却経路の洗浄の説明をご覧ください。

泥水での使用

泥水で使用する場合は、クロームメッキウォータポンプキット（オプション）の取り付けをおすすめいたします。
ヤマハ取扱店へご相談ください。



—メモ—



JMK00010

第 4 章
点検と整備



仕様諸元.....4-1
運搬と保管.....4-5
艇体に取り付けた状態での運搬.....4-5
長期保管.....4-6

定期点検.....4-10
定期点検表.....4-10
スパークプラグの点検.....4-11
燃料系統の点検.....4-12
燃料フィルタの清掃.....4-13
オイルタンク内水溜まりの点検.....4-14
アイドリングスピード
（無負荷最低速回転数）の調整.....4-15
ヒューズの交換.....4-16
配線と接続部の点検.....4-16
排気ガスもれの点検.....4-16
冷却水もれの点検.....4-16
グリス給脂箇所.....4-17
プロペラの点検.....4-19
ギヤオイルの交換.....4-21
アノードの点検.....4-22
バッテリの点検.....4-23
ボルト、ナット締付状態の点検.....4-24
船外機外観.....4-25

附属工具と部品.....4-25

JMK12010

仕 様 諸 元

項目 ＼ 機種名	単位	40VEO
寸法		
● 全長	mm	670
● 全高 S/L/X	mm	1,192/1,319/1,433
● 全幅	mm	349
● トランサム高さ S/L/X	mm	406/533/647
● 重量 S/L/X	kg	75/78/81
性能		
● 全速回転範囲	r/min.	4,500～5,000
● 最高出力	kW (hp)	29.4 (40) @5,000 r/min.
● アイドリングスピード（中立時）	r/min.	750～850
エンジン		
● エンジン種別		2-ストローク, L3
総排気量	cm^3	698
内径×行程	mm	67×66
● 点火方式		C.D.I.
● スパークプラグ	NGK	B7HS-10
電極隙間	mm	0.9～1.0
● 操作系		リモートコントロール
● 始動方法		電動始動
● バッテリ規格（JIS）		32C24～65D31
● 発電出力	V-A (W)	12-6
● 始動系		プライムスタート
ドライブ		
● ギヤ		前進一中立一後進
減速比		1.85 (24/13)
● トリムチルト方法		マニュアルチルト
● プロペラマーク		G
燃料とオイル		
● 推奨燃料		無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	L	24
● 推奨エンジンオイル		ヤマハ船外機(SS)オイル
● エンジンオイル容量	L	1.5
潤滑		分離給油
● 推奨ギヤオイル		ヤマハ船外機ギヤオイル
ギヤオイル容量	cm^3	430
締めつけトルク		
● スパークプラグ	N·m (kgf·m)	25 (2.5)
● プロペラナット	N·m (kgf·m)	35 (3.5)

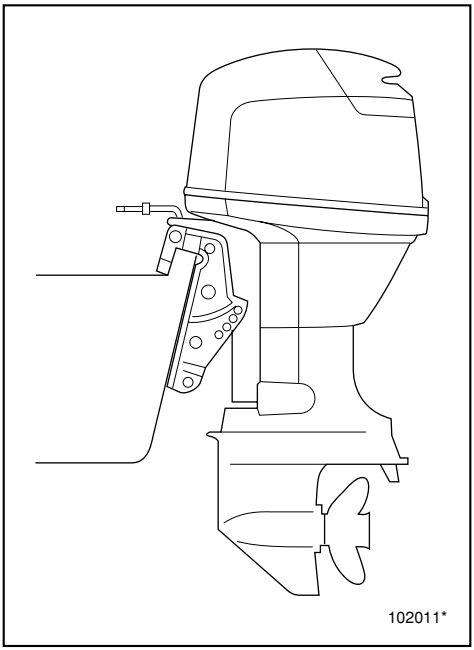
40VETO	40VWHDO	40VWHTO
646 1,192/1,319/1,464 350 406/533/647 86/88/92	1,281 −/1,350/1,464 360 −/533/647 −/90/94	1,281 −/1,350/1,464 360 −/533/647 −/93/97
4,500〜5,000 29.4 (40) @5,000 r/min. 750〜850	4,500〜5,000 29.4 (40) @5,000 r/min. 750〜850	4,500〜5,000 29.4 (40) @5,000 r/min. 750〜850
2-ストローク, L3 698 67×66 C.D.I. B7HS-10 0.9〜1.0 リモートコントロール 電動始動 32C24〜65D31 12-6 プライムスタート	2-ストローク, L3 698 67×66 C.D.I. B7HS-10 0.9〜1.0 ティラハンドル 電動始動／手動始動 32C24〜65D31 12-6 プライムスタート	2-ストローク, L2 496 72×61 C.D.I. B7HS-10 0.9〜1.0 ティラハンドル 電動始動／手動始動 32C24〜65D31 12-6 プライムスタート
前進一中立一後進 1.85 (24/13) パワートリム•チルト G	前進一中立一後進 1.85 (24/13) ハイドロチルト G	前進一中立一後進 1.85 (24/13) パワートリム•チルト G
無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機(SS)オイル 1.5 分離給油 ヤマハ船外機ギヤオイル 430	無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機(SS)オイル 1.5 分離給油 ヤマハ船外機ギヤオイル 430	無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機(SS)オイル 1.5 分離給油 ヤマハ船外機ギヤオイル 430
25 (2.5) 35 (3.5)	25 (2.5) 35 (3.5)	25 (2.5) 35 (3.5)

JMK12010

仕 様 諸 元

項目 ＼ 機種名	単位	50HETO
寸法		
● 全長	mm	670
● 全高 S/L/X	mm	1,192/1,319/1,464
● 全幅	mm	360
● トランサム高さ S/L/X	mm	406/533/647
● 重量 S/L/X	kg	86/88/92
性能		
● 全速回転範囲	r/min.	4,500～5,500
● 最高出力	kW (hp)	36.8 (50) @5,000 r/min.
● アイドリングスピード（中立時）	r/min.	750～850
エンジン		
● エンジン種別		2-ストローク, L3
総排気量	cm^3	698
内径×行程	mm	67×66
● 点火方式		C.D.I.
● スパークプラグ	NGK	B8HS－10
電極隙間	mm	0.9～1.0
● 操作系		リモートコントロール
● 始動方法		電動始動
● バッテリ規格（JIS）		32C24～65D31
● 発電出力	V-A (W)	12-6
● 始動系		プライムスタート
ドライブ		
● ギヤ		前進一中立一後進
減速比		1.85 (24/13)
● トリムチルト方法		パワートリム•チルト
● プロペラマーク		G
燃料とオイル		
● 推奨燃料		無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	L	24
● 推奨エンジンオイル		ヤマハ船外機(SS)オイル
● エンジンオイル容量	L	1.5
潤滑		分離給油
● 推奨ギヤオイル		ヤマハ船外機ギヤオイル
ギヤオイル容量	cm^3	430
締めつけトルク		
● スパークプラグ	Nm (kg•m)	25 (2.5)
● プロペラナット	Nm (kg•m)	35 (3.5)

50HWHDO	50HWHTO	—
1,281 −/1,350/1,464 360 −/533/647 −/80/83	1,281 −/1,350/1,464 360 −/533/647 −/93/97	
4,500～5,500 36.8 (50) @5,000 r/min. 750～850	4,500～5,500 36.8 (50) @5,000 r/min. 750～850	
2-ストローク, L3 698 67×66 C.D.I. B8HS−10 0.9～1.0 ティラハンドル 電動始動／手動始動 32C24～65D31 12-6 プライムスタート	2-ストローク, L3 698 67×66 C.D.I. B8HS−10 0.9～1.0 ティラハンドル 電動始動／手動始動 32C24～65D31 12-6 プライムスタート	
前進一中立一後進 1.85 (24/13) ハイドロチルト G	前進一中立一後進 1.85 (24/13) パワートリム•チルト G	
無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機(SS)オイル 1.5 分離給油 ヤマハ船外機ギヤオイル 430	無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機(SS)オイル 1.5 分離給油 ヤマハ船外機ギヤオイル 430	
25 (2.5) 35 (3.5)	25 (2.5) 35 (3.5)	



JMU00722

運搬と保管

JMU01060

船体に取り付けた状態での運搬

船外機の運搬は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具(トランサムバー等)を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

⚠警　告

- **チルトアップしているときは、道具を使って保持している場合でも、船外機の下には入らないでください。偶発的原因で船外機が勢いよく降下して、身体が挟まれる恐れがあります。**
- **専用燃料タンクを運搬する際は、燃料タンクを空にしてください。**

⚠注　意

ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー/ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JMU00725

船体から船外機を取り外して運搬や保管をする場合は、船外機スタンド等を使ってボルトで固定するなどして行なってください。

⚠注　意

プロペラ側がエンジン本体部よりも常に低くなるようにしてください。
さもなければ、冷却水がエンジン内部へ流れ込み損傷を受ける恐れがあります。

JMK23510

長期保管

船外機の保管は、次の手順で行なってください。

1） 真水を使って、冷却経路を洗浄し、船外機外部を洗ってください。

要　点

“冷却経路の洗浄”、および“船外機外観”の項目を参照ください。

2） 燃料ホースコネクタを外します。
3） エンジンが停止するまで、アイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。
4） 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふき上げます。
5） スパークプラグを外して、少量のエンジンオイルをシリンダ内へ入れ、手動始動ハンドル、または応急始動ロープを使ってフライホイールを 4 ～ 5 回転させオイルを行き渡らせます。
6） 再びスパークプラグを取付けます。

⚠注　意

船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。

JMU01062

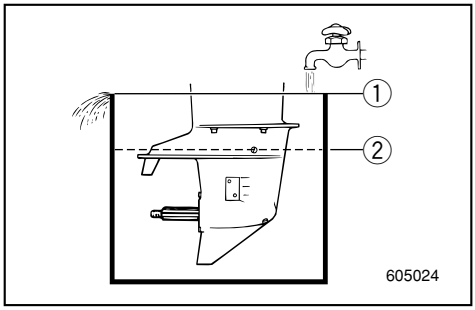
燃料タンク

1) 保管される場合は、専用燃料タンク内を空にしてください。
2) 専用燃料タンクの保管は、乾燥した換気の良い場所で、直射日光が当たらないようにして行なってください。

冷却経路の洗浄

● 水槽を使う場合

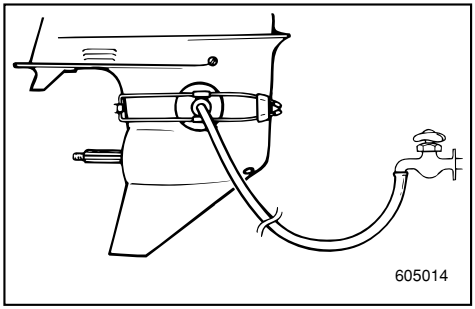
船外機を水槽に入れ、キャビテーションプレートの上部附近まで真水を入れてください。
中立（ニュートラル）でエンジンを始動し、数分間、アイドリング（無負荷最低速回転）で運転してください。

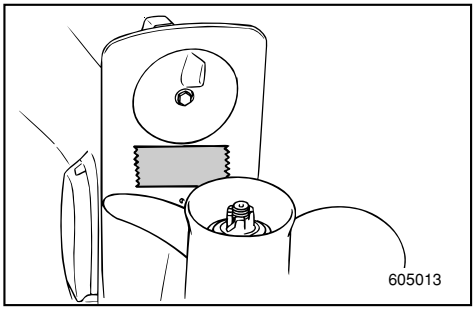


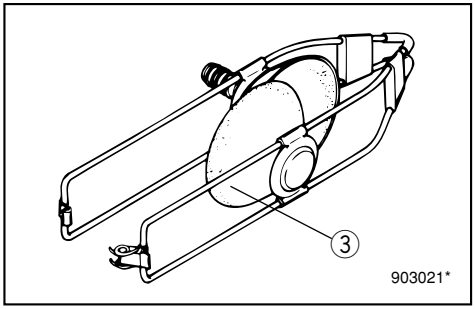
⚠注　意

水位がキャビテーションプレート以下の場合や水の供給が不十分な場合は、エンジンに損傷をきたします。

① 水面
② 最低の水位







● **水洗キット（オプション）を使う場合**

水洗キットのゴムカップが冷却水吸水口をふさぐように、ロワケースに取り付けます。水洗キットはロワケースの前側より取り付けてください。
トリムタブ前側の冷却水給水孔をガムテープのようなものでふさいでください。
水洗キットと水道蛇口をホースでつなぎます。
シフトを中立（ニュートラル）にして、水道水を供給しながらエンジンを始動させます。
それから数分間、アイドリングで運転してください。

⚠注　意

水道水を給水せずに、運転しないでください。ウォータポンプが損傷し、オーバヒートを起こす恐れがあります。
始動前には、必ず水洗キットを取り付け給水してください。

⚠警　告

水洗キットを使う場合は、必ずプロペラを外してください。

③ 水洗キット（部品番号 90890-46014）

JMK29010*

バッテリの取扱い

⚠警　告

バッテリ取扱い上のご注意
バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

- **火気厳禁＝ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。**
  爆発のおそれがあり危険です。
- **補充電は風通しのよいところで行なってください。**
- **落下等の強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。**
- **子供の手の届くところにおかないでください。**

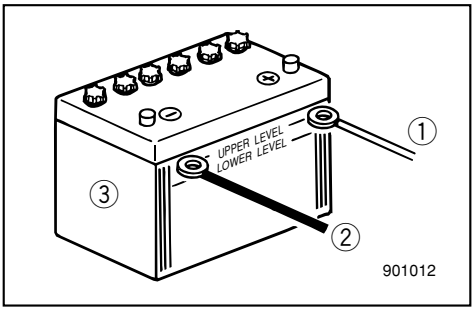
応急手当

- **万一、バッテリ液が皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。**

要　点

バッテリは製造メーカによって違いが有りますので、不明な点が有るときは、バッテリ製造メーカに問合せください。

1）ショートしないように、常に（−）側のバッテリコードから先に外し、ボートからバッテリを降ろします。
2）バッテリ本体と各ターミナルを清掃します。
　各室の液面が上限までなるように蒸留水を補給します。
3）直射日光の当たらない、冷所で乾燥した換気のよい平らな場所で保管します。



① （+）側バッテリコード
② （—）側バッテリコード
③　バッテリ

JMK30010

定　期　点　検

⚠警　告

- **本書での指示なき作業等を行なう時は、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検表

●印の項目については、お客様自身で点検を行なってください。
○印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	間隔	初回		次回		参照ページ
		10時間	50時間（3か月）	100時間毎（6か月毎）	200時間毎（12か月毎）	
スパークプラグ	清掃／調整	●	●	●		4-11
グリスポイント	グリス塗布／注入			●		4-17
ギヤオイル	交換	●		●		4-21
燃料系統	点検	●		●	○	4-12
燃料フィルタ	点検／交換	●	●	●		4-13
アイドリングスピード	調整	●		●		4-15
アノード	点検／交換	●	○	○		4-22
船外機外観	点検／清掃		●	●		4-25
冷却系路（※1）	清掃		●	●		4-7
プロペラ	点検		●	●		4-19
バッテリ	点検	●（毎月）				4-23
点火時期	点検	○		○		−
ボルト、ナット類	増締め	○		○		4-24
キャブレタ調整	調整	○		○		−
オイルタンク水抜き	点検／清掃		●	●		4-14
オイルポンプ	点検／調整	○				−
配線接続部	点検	●	●	●		4-16
冷却水もれ	点検	●	●	●		4-16
排気ガスもれ	点検	●	●	●		4-16

※1．塩水や泥水等でのご使用後は、その都度、実施して下さい。

要　点

お客様の船外機の使用状況により、点検時間が多少異なる場合がありますのでご了承ください。

JMK36010

スパークプラグの点検

スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。
スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。
スパークプラグは、電極にカーボン等が附着して、徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。
電極が消耗していたり、カーボン等で汚損している場合は、交換してください。
電極の隙間は、隙見ゲージを使って点検し、

標準スパークプラグ：
第4章の仕様諸元を参照ください。

規定値に合わせてください。
スパークプラグ取付の際は、取付面をきれ

電極隙間：
第4章の仕様諸元を参照ください。

いにふいて規定トルクで締めてください。

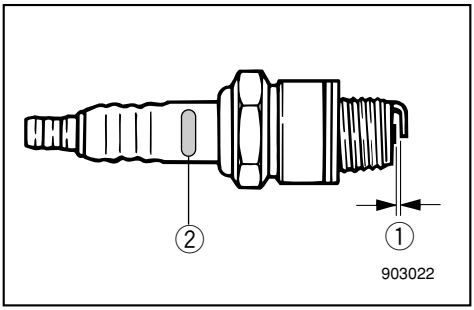
スパークプラグ締付トルク：
第4章の仕様諸元を参照ください。

要　点

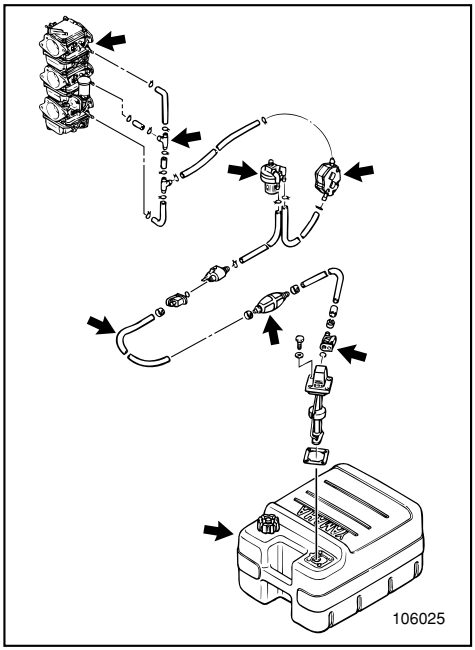
新しいスパークプラグを取付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って1/4～1/2回転更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って、正規の値で締めてください。

⚠警　告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。



① スパークプラグ電極隙間
② スパークプラグ識別番号



JMK38010

燃料系統の点検

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、タバコは吸わないでください。また、他の火種になるようなものを近づけないでください。

燃料ホース等の燃料もれ、キレツ、詰まりなどを点検してください。不具合が有れば、ただちにヤマハ取扱店で修理を行なってください。

主な点検箇所

- 燃料系統部品からのもれ
- 燃料ホースの接継部からのもれ
- 燃料ホースのキレツや疲労

⚠警　告

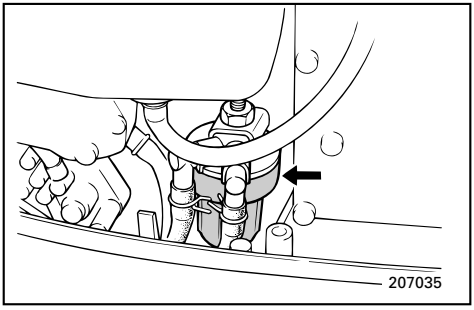
燃料もれは、火災や爆発の原因となりますので、常にチェックしてください。
船外機を安全に使用するために、燃料もれが見つかったらただちに、ヤマハ取扱店で修理を行なってください。

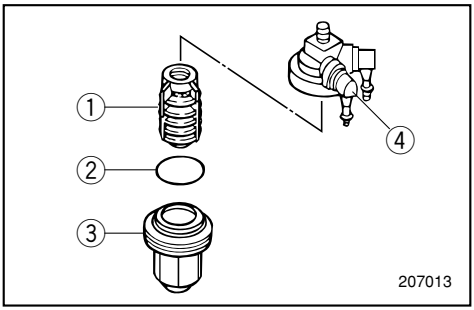
JMK50000

燃料フィルタの清掃

⚠警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。
- **作業上でなにかわからないことがあるときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。**
- **本作業は、エンジンが熱いときや運転中には行なわないでください。冷えてから行なってください。**
- **燃料フィルタにはガソリンが残っているので、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **作業中は、ガソリンがこぼれる恐れがあります。容器を使用して回収しながら行なってください。こぼれた場合には、直ちに拭き取ってください。**
- **作業は、換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクは、ボートから降ろして行なってください。**
- **燃料フィルタの再組付けは、注意深く確実に行なってください。組み付けが悪い場合は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。**



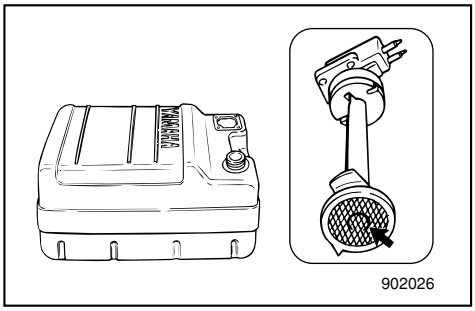


JMK50012

エンジン本体燃料フィルタの清掃

1）燃料フィルタ本体を固定してあるナットを外します。
2）容器を添えてこぼれたガソリンを回収しながら、フィルタカップを緩めて外します。
3）エレメントを外し、洗浄して乾燥させます。エレメントや0リングの状態を点検します。損傷のある場合は、交換します。
4）フィルタカップにエレメントを入れ、0リングを付けてからフィルタベースに確実にねじ込みます。
5）燃料フィルタ本体をブラケットに取り付けます。
6）エンジンを始動させ、燃料フィルタや燃料ホースからの燃料もれがないことを確認します。

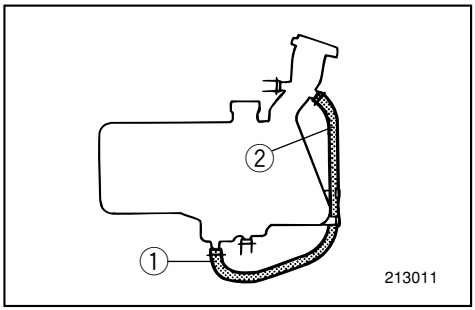
① エレメント
② 0リング
③ フィルタカップ
④ フィルタベース



JMU00752

専用燃料タンク燃料フィルタの清掃

1) 燃料ホースコネクタ本体の取り付けネジを緩め外します。
2) フィルタを洗浄し、乾燥させます。
3) パッキンを新しいものと交換して、再取り付けします。

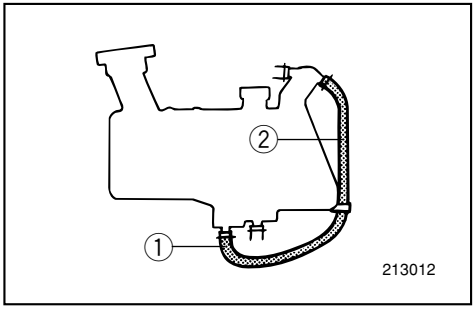


JMK58010

オイルタンク内水溜まりの点検

半透明の水抜きホースが、オイルタンクの底から給油口まで接続されています。
水や異物がこのホース内に溜まった時は、ただちに給油口のホースを外しこれらを排出します。

① ホース
② 給油口側



JMK54110

アイドリングスピード（無負荷最低速回転数）の調整

⚠警　告

- **エンジン運転中は、電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は、手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**

⚠注　意

この作業は、水上で行なってください。
陸上で行う場合は、水洗キットや水槽を使って行なうこともできます。

手順

要　点

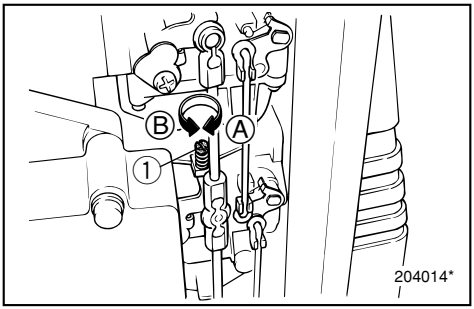
この作業は診断用のタコメータ（エンジン回転計）が必要です。

1）中立（ニュートラル）でエンジンを始動させ、暖機運転を終了させます。
2）スロットルストップスクリュにて、正規のアイドリングスピード（無負荷最低速回転数）に調整します（第4章の仕様諸元表参照）。

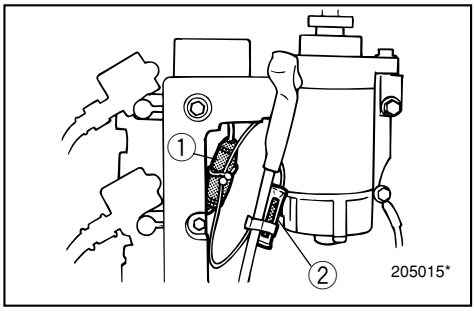
スロットルストップスクリュ	アイドリングスピード（無負荷最低速回転数）
時計方向に回す Ⓐ	速くなる
反時計方向に回す Ⓑ	遅くなる

要　点

アイドリングスピード（無負荷最低速回転数）の調整は、エンジンが完全に暖まった状態で行なってください。
調整が困難な場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。



① スロットルストップスクリュ



JMK76010

ヒューズの交換

ヒューズが切れた時は、ヒューズボックスを開き、中のヒューズを新しい同容量のものと交換します。

要　点

新しいヒューズに交換しても、すぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

① ヒューズボックス
② ヒューズ（２０Ａ）

⚠警　告

規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。

JMK78010

配線と接続部の点検

1） 電食防止用の各アース線が確実に取り付けされていることを点検してください。
2） 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。

排気ガスもれの点検

エンジンを始動させ、クランクシリンダ（エンジン本体）部分等から排気ガスもれの無いことを点検してください。

冷却水もれの点検

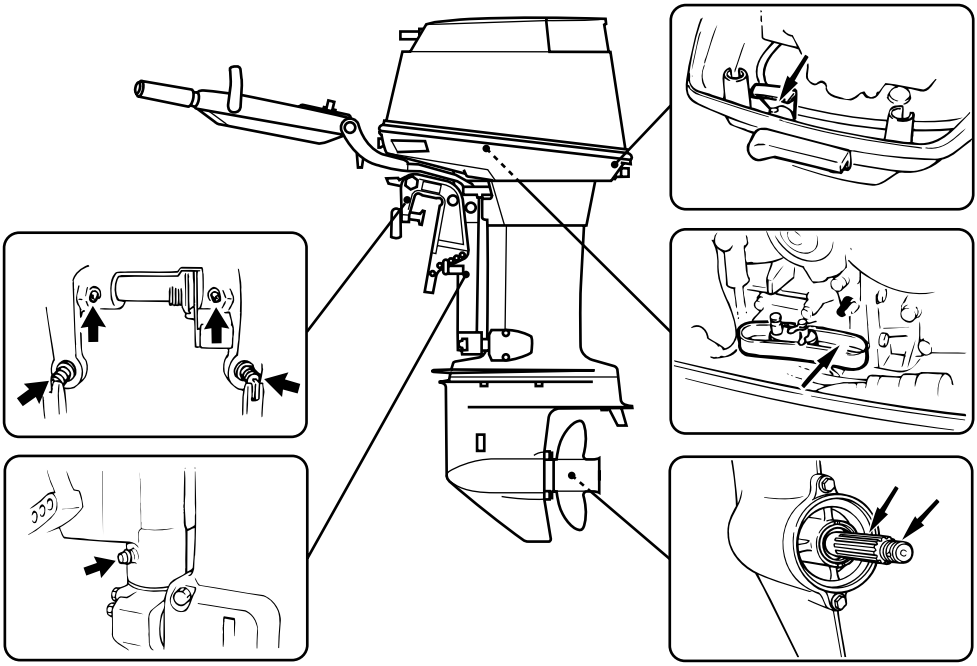
エンジンを始動させ、クランクシリンダ（エンジン本体）部分等から冷却水もれの無いことを点検してください。

JML00010

グリス給脂箇所



ヤマハグリスA
部品番号　90890-69910 (50g)
　　90890-69911 (250g)
ヤマハグリスD *1
部品番号　90890-69920 (50g)



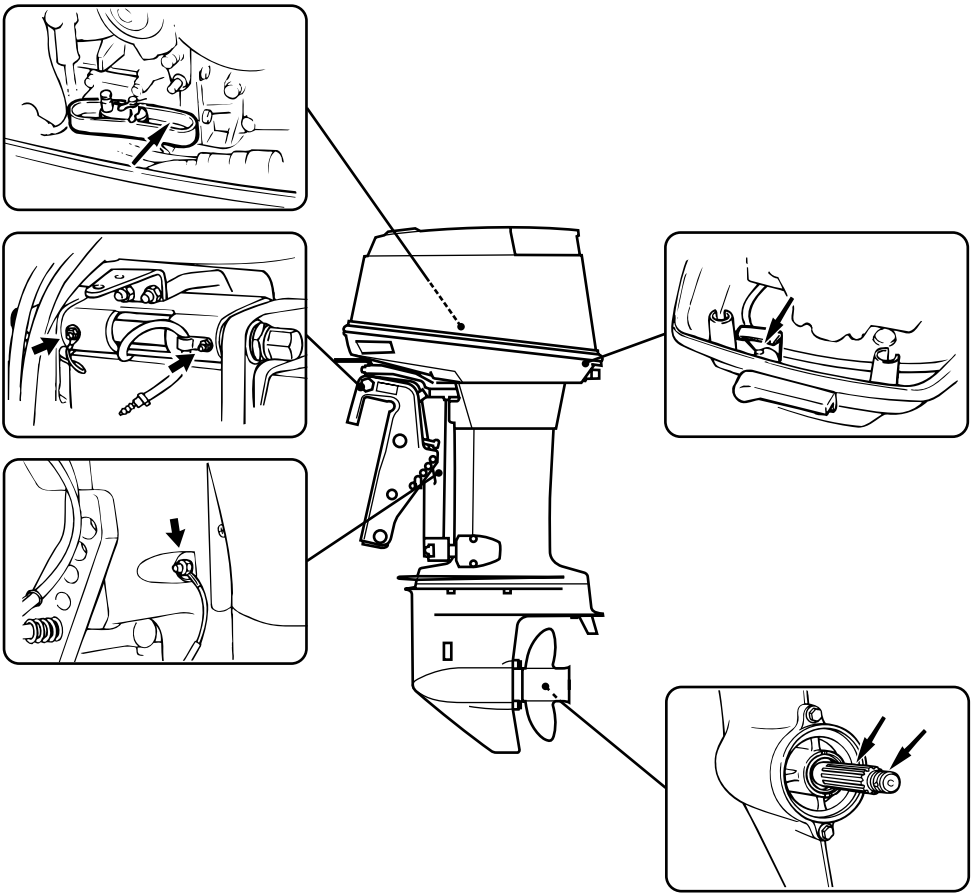
*1.プロペラシャフト用

JML00010

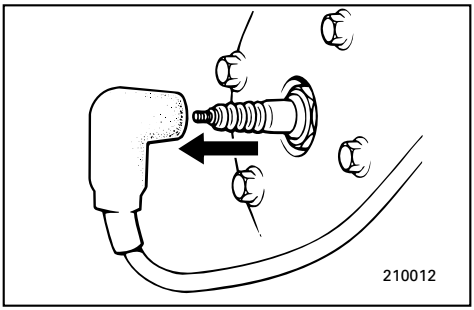
グリス給脂箇所

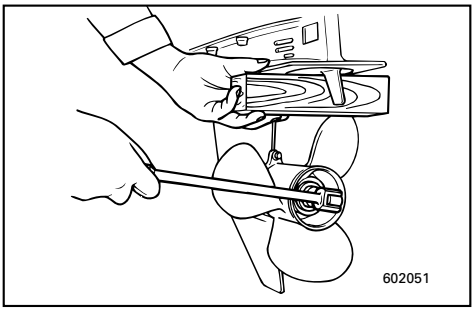


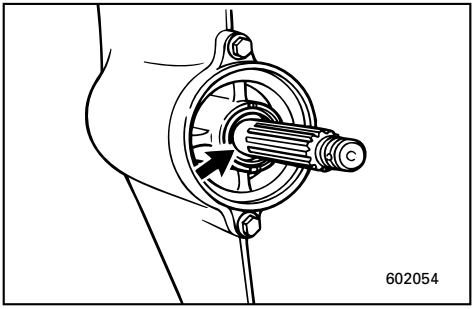
ヤマハグリスA
部品番号　90890-69910 (50g)
　　90890-69911 (250g)
ヤマハグリスD *1
部品番号　90890-69920 (50g)



*1.プロペラシャフト用







JML08010

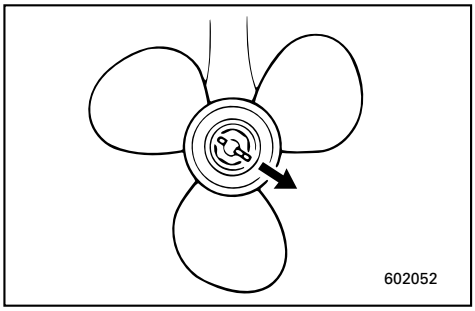
プロペラの点検

⚠警　告

プロペラ付近は、偶発的にエンジンが始動した場合に、重大な事故につながる恐れがあります。

- **プロペラの点検や脱着等を行なう前には、全てのスパークプラグキャップをスパークプラグより外してください。さらに、シフトを中立（ニュートラル）にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。**
  また、バッテリからバッテリコードを外してください。
- **プロペラナットを締めたり、緩めたりする時は、手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行なってください。**

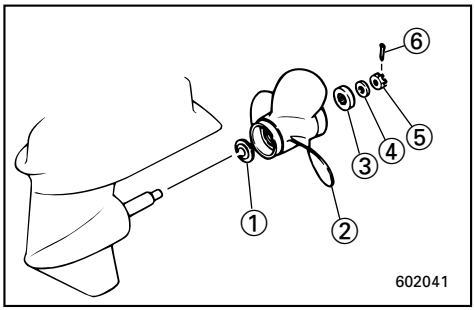
1） プロペラブレードの減り、表面の侵食、損傷等の点検をします。
2） プロペラシャフトのスプライン（山谷部分）の減りや、損傷等を点検します。
3） プロペラシャフトに釣糸が巻き込まれていないか点検します。
4） プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。



プロペラの取外し

1）プライヤを使って割ピンを引き抜きます。
2）プロペラナットを外します。
3）プロペラを外します。

① スラストワッシャ
② プロペラ
③ スペーサ
④ ワッシャ
⑤ プロペラナット（二面幅：22mm）
⑥ 割ピン



プロペラの取付け

1）プロペラシャフトにヤマハグリスD（アンチコロージョングリス）を塗布します。
2）最初に、スラストワッシャを入れ、プロペラを取り付けます。

⚠注　意

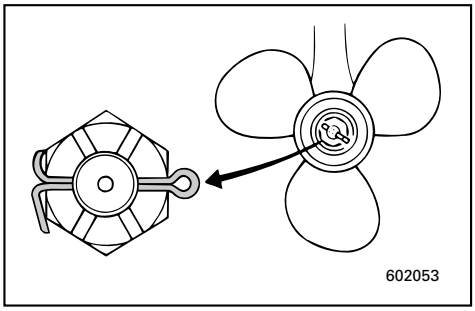
プロペラを取り付ける前には、必ずスラストワッシャを入れてください。
さもなければ、ロワケースとプロペラが接触し損傷する恐れがあります。

要　点

スラストワッシャは、広がっている側が奥になります。

規定トルク：
第4章の仕様諸元を参照ください。

3）スペーサ、ワッシャを入れプロペラナットを規定トルクで締め付けます。



要　点

規定トルクでプロペラナットを締め付けた時にプロペラシャフトの穴位置が合わない場合は、最初に合う穴位置まで更に締め込んでください。

⚠注　意

割ピンは新しいものを使用し、端を確実に折り曲げてください。
さもなければ、プロペラ脱落の原因となります。

JMU01771

ギヤオイルの交換

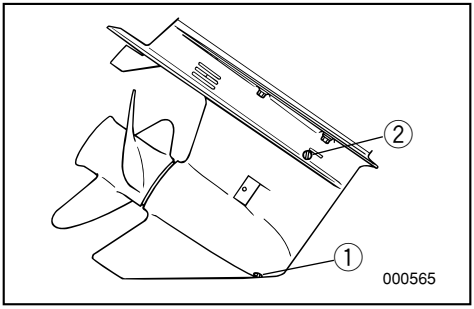
⚠警　告

- **チルトアップされた船外機の下には入らないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重い事故につながる恐れがあります。**
- **船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。**

1) ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。
2) 廃油の受け皿をロワケースの下に敷きます。
3) オイルドレンプラグ①を外します。

要　点

オイルドレンプラグは磁石となっています。オイルドレンプラグに金属粉が付着している場合は、取り除いてから再び取り付けてください。



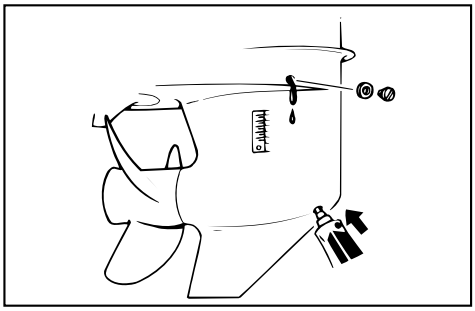
4) オイルレベルプラグ②を外し、ギヤオイルを残らず排出させます。

⚠注　意

排出したギヤオイルが白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。

5) 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイル(ハイポイドギヤオイル#90)をオイルドレン穴より注入します。

ギヤオイル容量；
第 4 章の仕様諸元を参照ください。



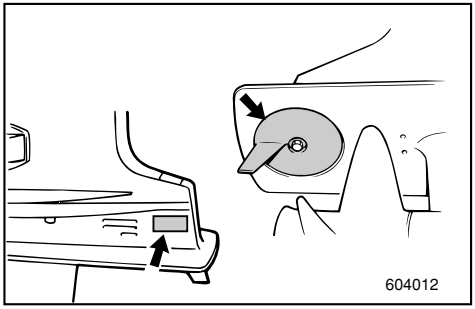
6) 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、オイルレベルプラグを締めます。次にオイルドレンプラグを締めます。

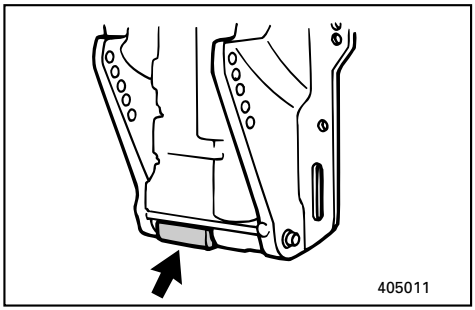
⚠注　意

オイルレベルプラグやオイルドレンプラグの緩みはロワケース内への水混入の原因となります。ガスケットを新しく交換して、確実に締め付けてください。

要　点

廃油の処理は、法律や条例等に従っておこなってください。





JML24010

アノードの点検

アノードは、電食（水中の微弱電気による金属の腐食）から船外機を保護するためのものです。
アノードを点検し、新品の 3 分の 1 以上消耗している場合は交換します。

⚠注　意

アノードに塗料などを塗ると電食防止の機能がなくなりますので注意してください。

要　点

使用状態や環境により、アノードの消耗時間は著しく異なります。

JML26011*

バッテリの点検

⚠警　告

バッテリ取り扱い上のご注意
バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

- 火気厳禁＝ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。
  爆発の恐れがあり危険です。
- 充電は風通しのよいところで行なってください。
- 落下等の強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
- 子どもの手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

⚠注　意

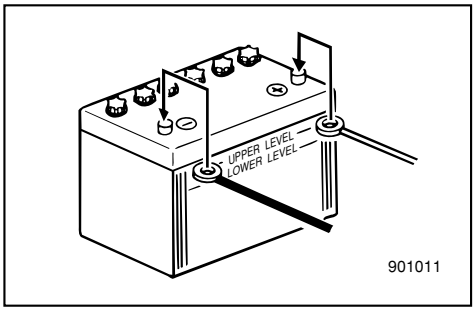
バッテリの保管状態が悪いと、すぐに使用不能となります。

1） 月に一度は、電解液の量を点検してください。
液が減っている場合は、蒸留水を上限位置まで補充してください。

⚠注　意

水道水はいろいろな物質が含まれているため、バッテリに悪影響を与えますので補充には使わないでください。

2） 電圧計を使って、充電状態が良好かどうか点検してください。



JML28010

バッテリの取り付け、取り外し

バッテリはボート内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない、水平な場所にしっかりと固定してください。

バッテリコードの接続は、最初に赤印端子を（＋）側に、続いて黒色端子を（－）側に確実に取り付けます。
バッテリコードの取外しは、逆の順序で黒色端子から先に外します。

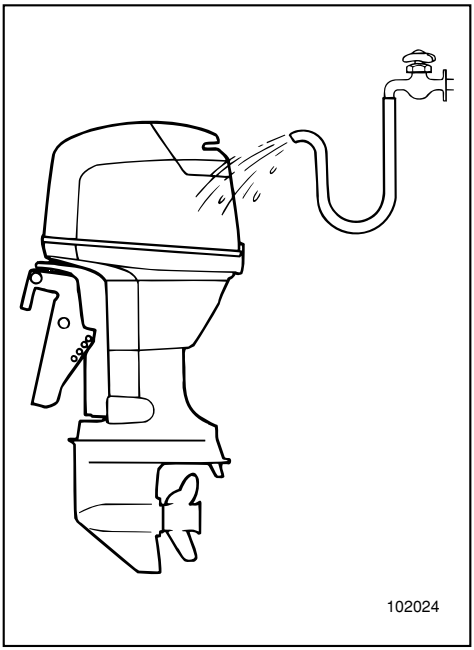
⚠注　意

- **バッテリコードの脱着の際は、エンジンスイッチを“ＯＦＦ”にしてから行なってください。**
- **バッテリコードの（＋）と（－）を間違って接続すると、電装系の故障等の原因になります。**
- **接続不良は、スタータモータの作動不良の原因となることがあります。**

JML40010

ボルト、ナット締め付け状態の点検

1）フライホイールナットやシリンダヘッドボルト等が規定トルクで確実に締まっていることを点検してください。
2）他のボルトやナットについても同様に点検してください。



JML42010

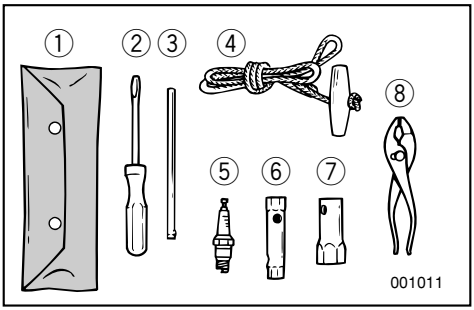
船外機外観

船外機の清掃

1） ご使用後は、真水で船外機の外部を洗ってください。
2） 冷却系の清掃は、”長期保管”の項目をご覧ください。

船外機外装の点検

引っ掻き傷、欠損、塗装の剥がれ等や腐食して白くなっていないかを点検してください。必要に応じて、塗料を塗って補修してください。
スプレ式塗料が用意されています。ヤマハ取扱店へお尋ねください。



JML50010

附属工具と部品

① 工具袋
② ドライバ（+、—）
③ ハンドル
④ 応急始動用ロープ
⑤ スパークプラグ（3本）
⑥ ボックスレンチ（10-12）
⑦ プラグレンチ（21）
⑧ プライヤ





JMN10010

第5章
不具合時の対応

故障と対策.....5-1
応急処置.....5-5
衝撃を受けた場合.....5-5
パワートリム／チルトが作動しない場合.....5-5
スタータモータが動かない場合.....5-6
(4～5回スタータモータを回しても)
エンジンが始動しない場合 5-8
船外機を水中に落とした場合 5-10

JMU01100

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。
一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。(機種や仕様により該当しない項目も含まれております)
不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態でヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。

現象	推定原因	対応
A. スタータモータが動かない	1. バッテリの容量低下、または容量の不足。 2. バッテリターミナルの緩み、または腐食。 3. ヒューズ切れ。 4. スタータモータの故障。 5. 前進、または後進にシフトが入っている。	1. バッテリ状態の点検。指定容量のバッテリの使用。 2. バッテリコードの締め付け、ターミナルの清掃。 3. 原因を調べ、新しいものに交換。 4. ヤマハ取扱店にて修理。 5. 中立（ニュートラル）に戻す。
B. エンジンが始動しない。（スタータモータは動く）	1. 燃料タンクが空。 2. 燃料の汚染、または古くなっている。 3. 燃料フィルタの詰まり。 4. 始動手順の間違い。 5. 燃料ポンプの故障。 6. スパークプラグの不良。 7. スパークプラグ電極隙間が不適切。 8. 配線の接続不良、または損傷。 9. 電装部品の故障。 10. カールコードのロックプレートの外れ。 11. エンジン内部の損傷。	1.燃料を入れる。 2.新しい、きれいな燃料へ交換。 3.清掃、または交換。 4.第 3 章の“エンジン始動”の項目参照。 5.ヤマハ取扱店にて修理。 6.電極の清掃、または交換。 7.正規の隙間に合わせる。 8.接続の確認、または配線の交換。 9.ヤマハ取扱店にて修理。 10.緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。 11.ヤマハ取扱店にて修理。

現象	推定原因	対応
C. アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。	1. スパークプラグの不良。 2. 燃料ホースが圧迫されている。 3. 燃料の汚染、または古くなっている。 4. 燃料フィルタの詰まり。 5. 電装部品の故障。 6. 警告機構の作動。 7. スパークプラグ電極隙間が不適切。 8. 配線の接続不良、または損傷。 9. 推奨外オイルの使用。 10. サーモスタットの不良。 11. キャブレタ調整不良。 12. 燃料ポンプの故障。 13. エアベントスクリュが閉まっている。 14. チョークノブが引かれている。 15. チルトの上げ過ぎ。 16. キャブレタの詰まり。 17. 燃料ホースの接続不良。 18. スロットルバルブの調整不良。 19. バッテリコードの外れ。	1. 電極の清掃、または交換。 2. 燃料ホース取り回しの点検。 3. 新しい、きれいな燃料へ交換。 4. 清掃、または交換。 5. ヤマハ取扱店にて修理。 6. 本項目“D”を参照。 7. 正規の隙間に合わせる。 8. 接続の確認、または配線の交換。 9. 推奨オイルへ交換。 10. ヤマハ取扱店にて修理。 11. ヤマハ取扱店にて修理。 12. ヤマハ取扱店にて修理。 13. エアベントスクリュを開ける。 14. チョークノブを戻す。 15. チルトを下げる。 16. ヤマハ取扱店にて修理。 17. 接続箇所の点検。 18. ヤマハ取扱店にて修理。 19. 確実に接続。

現象	推定原因	対応
D. 警告ブザーが鳴る、または警告灯が点灯する。	1. 冷却経路の詰まり。 2. エンジンオイル不足。 3. スパークプラグ熱価不良。 4. 推奨外オイルの使用。 5. オイルの劣化。 6. オイルフィルタの詰まり。 7. オイルポンプの故障。 8. ボートの過重荷。 9. ウォータポンプ、またはサーモスタットの故障。	1. 冷却水吸水口の点検。 2. 規定量まで補充。 3. 正規熱価のものに交換。 4. 推奨オイルへ交換。 5. 新しいオイルへ交換。 6. ヤマハ取扱店にて修理。 7. ヤマハ取扱店にて修理。 8. ビルジ、積み荷等の確認。 9. ヤマハ取扱店にて修理。
E. エンジンの力がない。	1. プロペラの損傷。 2. プロペラサイズの不良。 3. トリム角度の調整不良。 4. 船外機取り付け高さ不良。 5. 警告機構の作動。 6. 船底への貝、海草類の付着。 7. スパークプラグの不良。 8. 船外機への貝、海草類の付着。 9. 燃料ホースが圧迫されている。 10.燃料フィルタの詰まり。 11.燃料の汚染、または古くなっている。 12.スパークプラグ電極隙間が不適切。	1. プロペラの交換。 2. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。 3. 再調整。 4. 再調整。 5. 本項目“D”を参照。 6. 清掃。 7. 電極の清掃、または交換。 8. 清掃。 9. 燃料ホース取り回しの点検。 10.清掃、または交換。 11.新しい、きれいな燃料へ交換。 12.正規の隙間に合わせる。

現象	推定原因	対応
F. 振動が大きい。	1. プロペラの損傷。 2. プロペラシャフトの損傷。 3. 海藻、貝類のプロペラへの付着。 4. 船外機取り付けボルト等の緩み。 5. ハンドルスイベル部の緩み、または損傷。	1. プロペラの交換。 2. ヤマハ取扱店にて修理。 3. 除去、清掃。 4. 締め付け。 5. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。
G. プロペラが回転しない。（わずかには回転する場合もある）	1. プロペラコーンのスリップ。 2. クラッチの損傷。 3. ドライブシャフト、またはプロペラシャフトの損傷。	1. プロペラの交換。 2. ヤマハ取扱店にて修理。 3. ヤマハ取扱店にて修理。

JMH80010

応急処置

衝撃を受けた場合

⚠警　告

船外機は、航走中に衝突による重大な損傷を受けることが有ります。
損傷を受けた船外機は安全な航走が出来ません。



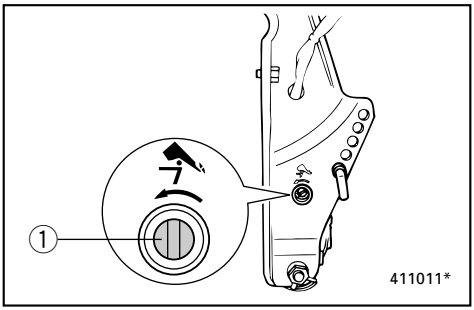
航走中の船外機に水中の物体が当った場合は、次の手順に従ってください。

1）すぐにエンジンを止めてください。
2）各部の作動を確認し、各部品の損傷を点検してください。また、ボートの損傷も調べてください。
3）ゆっくり、注意しながら最寄りの港へ引きかえしてください。
4）再度、ご使用する前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMG65210

パワートリム/チルトが作動しない場合

バッテリが上がったり、ユニットの故障等でパワートリム/チルトスイッチを使ってチルトアップやチルトダウンの操作ができないときは、手動操作で行なう事ができます。



① リリーフバルブ

JMG65111

1) マイナスドライバ等を使ってリリーフバルブを反時計方向に止まるまで回します。
2) トップカウルの後部を持って手動でチルトアップ/ダウンの操作を行ないます。
3) 好みの位置でリリーフバルブを元の位置まで締め付けるとそこでチルト角度が固定されます。

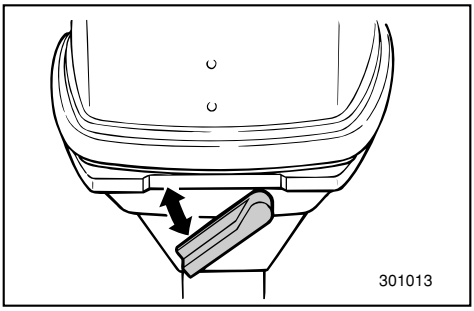
JMN30510−*

スタータモータが動かない場合

始動装置が作動しない場合（スタータモータが動かない場合）、応急始動用ロープでエンジン始動することが出来ます。
但し、ボートの仕様や艤装状態によっては、操作が非常に困難な場合があります。

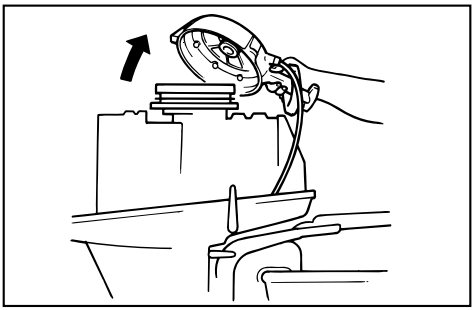
⚠警　告

- **この操作は、非常時に、最寄りの港へ引き返す時のみ行なってください。**
- **応急始動用ロープを使って、エンジン始動する際は始動安全装置が作動しませんのでシフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。さもなければ、ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引く時は、背後に人が居ないことを確めてください。**
- **エンジンが始動後は、フライホイールや他の回転部に衣服等が巻き込まれないように、また触れないようにしてください。**
- **エンジン運転中は、トップカウルやフライホイールカバー等を取り付けないでください。**
- **エンジン運転中は、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**



手順

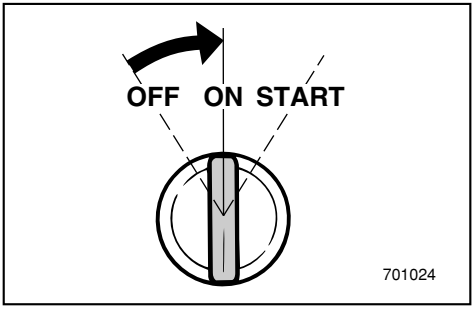
1） トップカウリングを外します。



2） フライホイールカバーを引き上げて外します。
手動始動装置付きの場合は、装置本体を止めてあるボルト3本といっしょに取り外します。

要　点

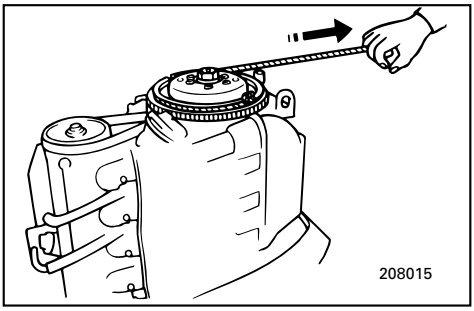
始動安全ケーブルの装備されている機種は、始動装置から外します。



3） “エンジン始動”の項を見て、始動の準備をします。
シフトを中立（ニュートラル）にして、カールコードのロックプレートを緊急エンジン停止スイッチへ差し込みます。
エンジンスイッチを“ON”にします。

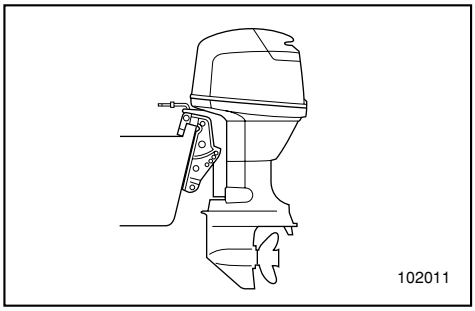
要　点

エンジンが冷えている時は、“（4～5回スタータを回しても）エンジンが始動しない場合”の項を参照してください。



4） 応急始動用ロープの結び目を、フライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に1～2回巻きつけます。

5） 抵抗を感じるところまでロープを引き、それから一気に引張ります。
1回で始動しない場合は、4）からの操作を繰り返してください。

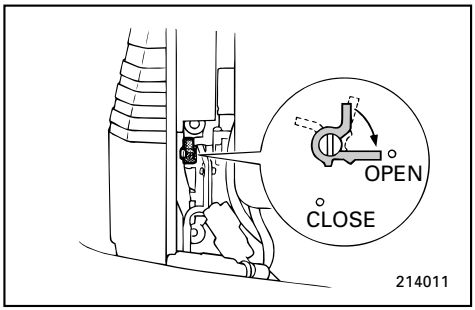


JMN32410

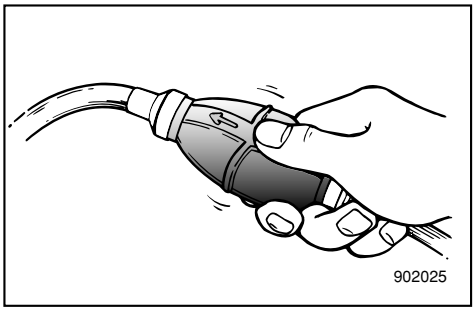
（4～5回スタータモータを回しても）エンジンが始動しない場合

エンジンが冷えていて始動しない場合は、次の手順どおり行なってください。

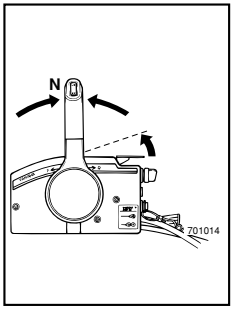
1） 船外機をいっぱいまでチルトダウンします。

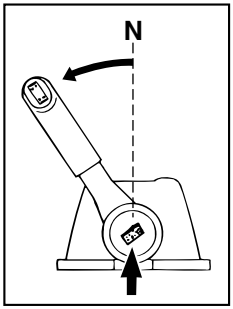


2） キャブレタサイレンサカバーの裏側にある非常始動用バルブを時計方向に“OPEN”の位置まで回します。



3） プライミングポンプの矢印を上に向けて、2～3回握ったり離したりします。

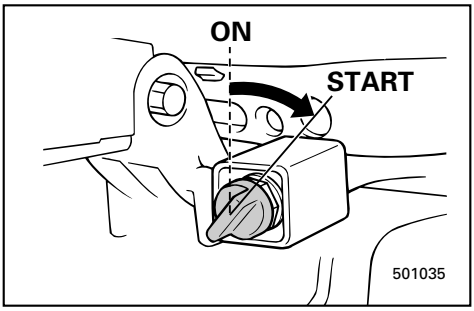




4） ニュートラルスロットルレバーまたは、フリーアクセレータボタンを押してリモコンレバーを抵抗を感じるところより少し倒します。

要　点

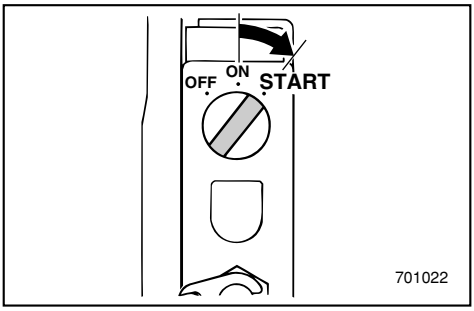
ニュートラルスロットルレバーおよびフリーアクセレータボタンは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の時しか動きません。



5） エンジンスイッチを“ON”の位置にします。
6） エンジンスイッチを“START”の位置まで回し始動させます。

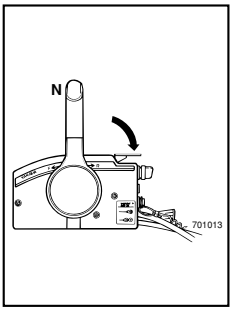
要　点

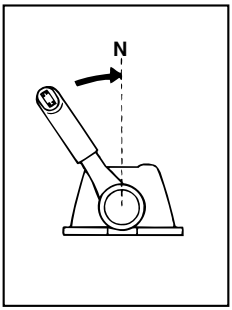
始動装置が故障している時は、“スタータモータが動かない場合”の項目をご覧ください。



⚠注　意

- **スタータモータは、連続して 5 秒以上回さないでください。**
  5 秒以内でエンジンが始動しない時は、１０秒たってから、もう一度行なってください。
  スタータモータを 5 秒以上連続して回すと、バッテリが上がり、エンジンが始動出来なくなる恐れがあります。
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチを“START”の位置にしないでください。**

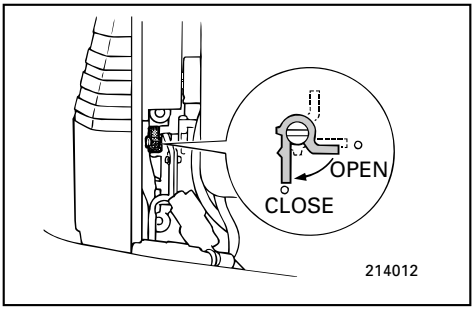


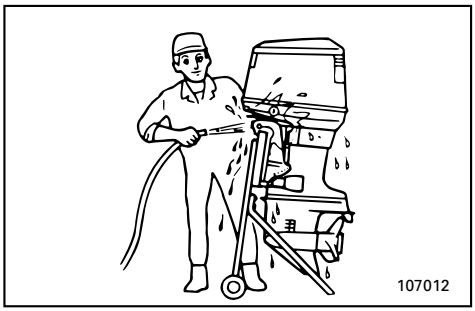


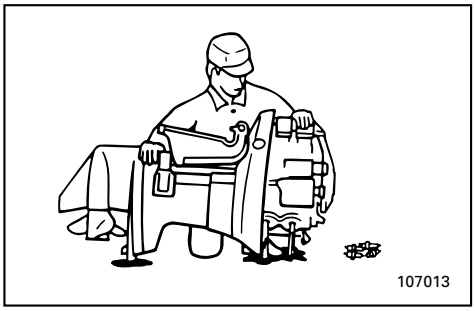
7） エンジンが停止しないように、ニュートラルスロットルレバー、またはリモコンレバーをゆっくりと元の位置まで戻します。
8） エンジン始動後は、非常始動用バルブを時計方向に“CLOSE”の位置まで回します。

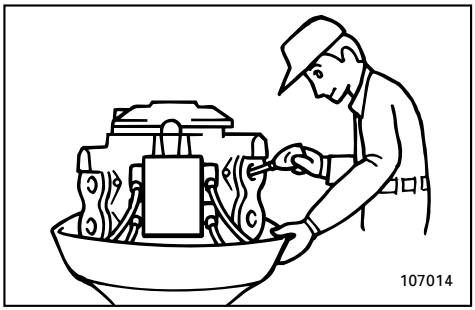
⚠警　告

- **エンジン運転中は、イグニッションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**
- **エンジン始動後は、フライホイールや他の回転部に衣服等が巻き込まれないように、また触れないようにしてください。**
- **エンジン運転中は、トップカウルやフライホイールカバー等を取り付けないでください。**









JMN50010

船外機を水中に落とした場合

水没したエンジンは完全に分解整備しなければなりません。
分解整備がおくれると内部の各部に錆や腐食の発生を促す原因となりますから、直ちにヤマハ取扱店に持参してください。

直ちに持参できない場合は、応急的に次の処置を施してください。

1） できるだけ早くエンジンを水から上げる。
2） 真水で洗い塩分、泥水、草等を取去る。
3） スパークプラグを取外し、プラグ孔よりエンジン内の水を排水する。
4） キャブレタの燃料を排出する。
5） キャブレタとスパークプラグ孔よりエンジンオイルを注入し、手動始動ハンドルまたは応急始動用ロープ等を使って、フライホイールロータを回転させ、オイルを行き渡らせる。
6） できる限り早くヤマハ取扱店に分解整備を依頼してください。

⚠警　告

ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。



ーメモー

あ～ん



JMP00010

第6章
索引

索引.....6-1

6

索引

あ

アイドリングスピード（無負荷最低速回転数）の調整 4-15
浅瀬航走 3-19
あなた自身と同乗者の安全のために 1-2
アノードの点検 4-22
安全にご使用するにあたって 1-2

う

運搬と保管 4-5

え

エアベントスクリュ 2-4
エンジンオイル 1-5
エンジンが始動しない場合 5-8
エンジン始動 3-8
エンジンスイッチ 2-9, 2-12
エンジン停止 3-15

お

オイルの補給 3-2
オイル残量•オイルフィルタ詰まり警告 2-21
オイル残量警告 2-22
オイル残量警告灯 2-17
オイルタンク内水溜まりの点検 4-14
応急処置 5-5
主な構成部品 2-1
オーバヒート警告 2-20

か

ガソリン 1-4

き

機能集中ティラハンドル 2-6
ギヤオイル 1-5
ギヤオイルの交換 4-21
ギヤシフトレバー 2-7
緊急エンジン停止スイッチ 2-8, 2-13

く

グリス給脂箇所 4-17

け

警告装置 2-20

こ

故障と対策 5-1

さ

索引 6-1

し

塩水での使用 3-24
始動安全装置 2-5
出港前の点検 3-4
手動始動ハンドル 2-5
重要ラベル貼付場所 1-3
衝撃を受けた場合 5-5
仕様諸元 4-1

す

スタータモータが動かない場合 5-6
スパークプラグの点検 4-11
スロットルインジケータ 2-6
スロットルコントロールグリップ 2-6
スロットルフリクション調整ノブ 2-7

せ

製造番号 1-1
船外機外装の点検 4-25
船外機外観 4-25
船外機の仕様区分 1-1
船外機トリム角度 3-16
船外機の清掃 4-25
船外機の取り付け 3-1
船外機を水中に落とした場合 5-10
前進•後進 3-13

そ

操作系とその機能 2-4

た

タコメータ 2-17
他の航走状況 3-24
他の船舶や遊泳者の安全のために 1-2
暖機運転 3-12

ち

長期保管 4-6
長期保管後の運転について 3-5
チルトアップ 3-20
チルトアップとチルトダウン 3-20, 3-22, 3-23
チルトサポートレバー 2-19
チルトピン 2-16
チルトロック機構 2-18

て
定期点検表.....4-10
定期点検 4-10
艇体に取り付けた状態での運搬.....4-5
ティラハンドル.....2-6
と
冬期または寒冷地での使用について 1-7
トップカウル脱着レバー 2-19
トリム角度の調整.....3-17
トリムタブ.....2-15
トリムメータ.....2-18
泥水での使用.....3-24
な
慣らし運転.....3-6
に
ニュートラルインタロック.....2-11
ニュートラルスロットルレバー.....2-11
ね
燃料計 2-4
燃料系統の点検.....4-12
燃料タンク 2-4, 4-6
燃料タンクキャップ.....2-4
燃料タンクへの給油.....3-2
燃料とオイル.....1-4
燃料とオイルの給油.....3-2
燃料フィルタの清掃 4-13
は
排気ガスもれの点検 4-16
配線と接続部の点検 4-16
バッテリ 1-5
バッテリの点検.....4-23
バッテリの取扱い.....4-9
バッテリの取り付け、取り外し.....4-24
パワートリム•チルト
スイッチ.....2-9, 2-12, 2-16
パワートリム／チルトが作動しない
場合 5-5
ひ
ヒューズの交換.....4-16
ふ
附属工具と部品.....4-25
フリーアクセレータボタン.....2-14
プロペラ 1-6
プロペラの点検.....4-19
プロペラの取り付け 4-20
プロペラの取り外し 4-20
ほ
ボルト、ナット締め付け状態の
点検 4-24
り
リモートコントロール 2-10
リモコンレバー.....2-11
リモコンレバーフリクション調整
スクリュ 2-14
れ
冷却水もれの点検.....4-16
冷却経路の洗浄.....4-7

JMU01606

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ、ご相談はご購入店または下記の「お客様相談室」へお願いいたします。

ヤマハ発動機(株) お客様相談室

〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500
フリーダイヤル☎0120−090−819

オープン時間　月曜〜金曜（除く祝祭日）
9：00〜12：00　13：00〜17：00

携帯電話等、フリーダイヤルがご利用できない場合は、
0538−32−1166をご利用下さい。

JMU01165

不 許 複 製

名　　称：40V/50H
　　船外機取扱説明書
部品番号：63C-28199-04
発　　行：ヤマハ発動機株式会社
　　2002年3月

130314-000000	NTK-200-1

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
Printed in Japan
March 2002-0.5 × 1
63C-28199-04
(40VWHDO, 40VWHTO, 40VEO, 40VETO, 50HWHDO, 50HWHTO, 50HETO)
(J)

再生紙を使用しています。

Outboard

保証登録書

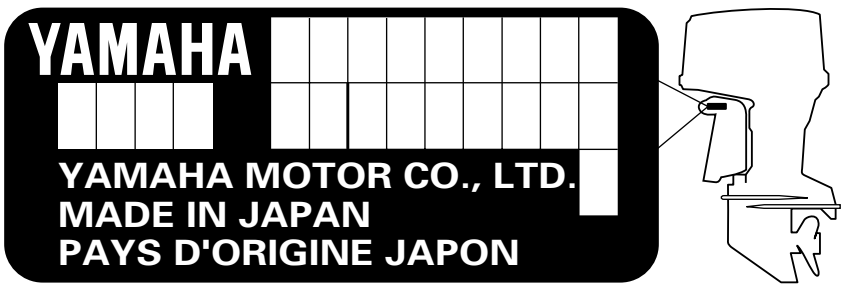
①販売店控（FAX用）

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　　月　　日（納入日）～	一般保証満了日：２０　　年　　月　　日
	特別保証満了日：２０　　年　　月　　日

取付艇種		用　途（マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）ー 208

Outboard

保証登録書

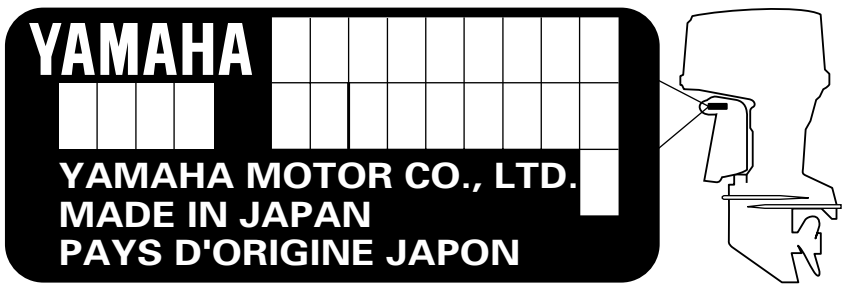
②ヤマハ販売会社控

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　　月　　日（納入日）～	一般保証満了日：２０　　年　　月　　日
	特別保証満了日：２０　　年　　月　　日

取付艇種		用　途（マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）－ 208

Outboard

保証登録書

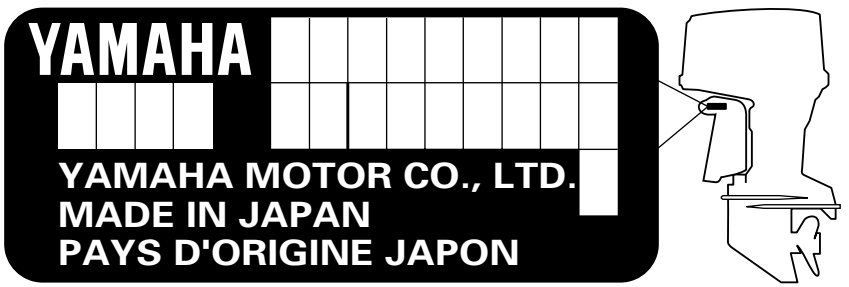
③お客様控（保証書）

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　月　日 （納入日）	～	一般保証満了日：２０　　年　月　日
		特別保証満了日：２０　　年　月　日

取付艇種		用　途 （マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量 （４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動 （２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量 （ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）ー 208

保 証 書

お買いあげいただきました裏面記載の製品に万一不具合がおきました場合にはこの保証書に基づき次の通り保証致します。
なお、この保証は日本国内で使用される当該製品に限り適用致します。

1．保証の発効
お買いあげいただきました当該製品の保証は、この保証書に弊社の販売店、取扱店が必要事項を記入の上、捺印することにより有効となります。

2．保証期間
保証期間は、納入日（お客様にお渡しした日）より一般保証１年間又は使用時間200時間、特別部品保証３年間又は使用時間300時間のいずれか先に到達したときまでと致します。特別保証部品はフューエルタンク等の燃料系部品、ステアリングブラケット等の操舵系部品、クランクシャフト等のエンジン部品、ドライブシャフト等の動力伝達系部品、ニュートラルスイッチ等の機能部品の破損に対して適用致します。尚、特別保証部品の詳細につきましては弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店へお問い合わせ下さい。

3．保証内容
（要件）
次の３つの要件を充すものに限ります。
⑴保証期間内に、当該製品を構成する弊社純正部品及び指定部品に、材料又は製造上の原因により発生した故障又は破損。
⑵保証期間内に弊社の販売店、取扱店に届け出の上保証修理が認められたもの。
⑶購入後１か月目の無償点検が指定されている製品については、その点検済を証する書面を提示すること。
（内容）
⑴この保証書に示す条件に従って、弊社の判断により無償にて当該部品の交換又は補修を行います。
⑵保証修理により取り外した不良部品は、弊社の所有となります。

4．保証修理の受け方
保証修理の適用を認められたときは、次の手順に従ってください。
⑴お買いあげの販売店、取扱店又は弊社指定販売店に於いて修理を受けてください。
⑵その際、登録済の保証書及び２．⑶の書面の提示及び当該故障又は破損物品の提出がないときは、保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

5．保証除外項目
保証期間内でも、次の項目の一つに該当するときは保証修理の対象となりません。
（指定外品、天災に起因するもの）
⑴弊社純正及び指定以外の部品又は材料を使用した為に発生したとみなされる故障又は破損。
⑵天災、地変、公害、航行中又は海送、陸送中の事故、その他弊社の責に帰すことの出来ない事由により発生した故障又は破損。
⑶一般的に機能上影響のない腐食、錆、オイルのにじみ及び感覚的な現象。（音、振動等）
⑷経時変化により発生した塗装、メッキ面等の自然退色、ひび割れ及びこれらに類するもの。
（取扱方法等に起因するもの）
⑴取扱方法、保守方法もしくは保管方法の誤り又は保管場所の不適切によって発生したとみなされる故障又は破損。
⑵日常点検、点検整備、定期交換部品の交換等が実施されていないために発生したとみなされる故障又は破損。
⑶弊社が定める使用制限規定（定員、積載量、馬力等）を超えて使用したために発生したとみなされる故障又は破損。
⑷レースに使用したもの。
⑸弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われたエンジン又は艤装品の取付けによって発生したとみなされる故障又は破損。
⑹弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われた修理、整備、改造によって発生したとみなされる故障又は破損。
（※）通常の使用状態において消耗するもの（パッキン、オイルシール、プロペラ、プラグ等）は保証修理の対象になりません。

6．保守、点検、整備
当該製品を安全に御使用いただくために、弊社で定める保守、点検、整備は取扱説明書及び整備手帳に定めるところに従いお客様の責任において実施していただきます。又、これらに要する費用はお客様の負担となります。

7．保証の継承
保証期間内にある中古製品を購入されたお客様は、保証書に記載されている弊社販売店、取扱店に保証書を提示の上、点検整備（有料）を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

ヤマハ発動機株式会社
静岡県磐田市新貝2500

YAMAHA